

第 2 章 大気汚染常時監視結果

1 環境基準の達成状況

環境基本法第 16 条の規定により、「大気汚染に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、及び生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準」として環境基準が定められている。

大気汚染の状況を環境基準により評価する場合、環境庁通知で短期的評価と長期的評価の 2 通りの方法が示されている。

短期的評価とは、環境基準が 1 時間値又は 1 時間値の 1 日平均値として定められているものについて、測定を行った時間又は日について評価する方法であり、長期的評価については、年間にわたる測定結果を長期的に観察したうえで評価する方法である。

表 2 - 1 大気汚染に係る環境基準について

物質	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質
環境上の条件	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。	1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。	1 時間値が 0.06 ppm 以下であること。	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。
(評価方法) ① 短期的評価（二酸化窒素を除く。） 測定を行った日についての 1 時間値の 1 日平均値若しくは 8 時間平均値または各 1 時間値を環境基準と比較して評価を行う。 ② 長期的評価 ア 二酸化硫黄、一酸化炭素及び浮遊粒子状物質 1 年間の測定を通じて得られた 1 日平均値のうち、高いほうから数えて 2 % の範囲にある測定値を除外した後の最高値（1 日平均値の年間 2 % 除外値）を環境基準と比較して評価を行う。 ただし、上記の方法に関わらず環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合には非達成とする。 イ 二酸化窒素 1 年間の測定を通じて得られた 1 日平均値のうち、低いほうから数えて 98 % 目に当たる値（1 日平均値の年間 98 % 値）を環境基準と比較して評価を行う。					

平成 16 年度から平成 18 年度の 3 カ年における上記の環境基準達成状況を表 2 - 2 に示した。

なお、年間測定時間が 6,000 時間以上の測定局を有効測定局とし、これに該当しなかった測定局は、環境基準の長期的評価の対象としない（ただし、光化学オキシダントは、長期的評価の対象とならない。）。

表 2 - 2 環 境 基 準 達 成 状 況

測定局 種 別	市 町 名	項目 年度 測定局	二酸化硫黄 (長期)			二酸化窒素 (長期)			一酸化炭素 (長期)			光化学オキシ ダント (短期)			浮遊粒子状 物 (長期)			
			16 年 度	17 年 度	18 年 度	16 年 度	17 年 度	18 年 度	16 年 度	17 年 度	18 年 度	16 年 度	17 年 度	18 年 度	16 年 度	17 年 度	18 年 度	
			測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	測定局	
環 境 大 気 測 定 局	金 沢 市	三 馬																
		西 南 部																
		小 立 野																
		中 央																
		駅 西																
		西 部																
		北 部																
	七 尾 市	七 尾																
		大 田																
		田 鶴 浜																
		能 登 島																
		石 崎																
		崎 山																
		徳 田																
	小 松 市	小 松																
	加 賀 市	大 聖 寺																
	羽 咋 市	羽 咋																
	白 山 市	山 島																
		松 任																
		美 川																
	能 美 市	根 上																
津 幡 町	津 幡																	
内 灘 町	内 灘																	
中 能 登 町	鳥 屋																	
	鹿 島																	
自 動 ガ 車 ス 排 測 出 定 局	金 沢 市	武 蔵																
		片 町																
		藤 江																
		駅 前																
	小 松 市	小 松																
野々市町	野 々 市																	

(注) 記号は下記のとおりである。(ただし、光化学オキシダントは測定時間による区別はしない。)
 : 環境基準達成
 : " 非達成
 : 二酸化窒素の環境基準 0.04ppm ~ 0.06ppm のゾ - ン内にあるもの

2 一般環境大気測定局における汚染状況

一般環境大気測定局の測定項目及び有効測定局数を表2-3に示す。

平成18年度は、すべての測定局が有効測定局であった。

表2-3 一般環境大気測定局における項目別測定状況（平成18年度）

項目	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化窒素	一酸化炭素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	非メタン炭化水素	メタン
測定市町数	6	10	10	1	10	10	3	3
測定局数	12	19	19	1	22	20	3	3
有効測定局数	12	19	19	1	-	20	-	-

（注）有効測定局の扱いをしない項目については、「-」を記した。

以下に測定項目別の状況を示すが、前年度との比較を行う場合は、有効測定局を対象としている。

(1) 二酸化硫黄

二酸化硫黄による大気汚染は、石油、石炭等化石燃料に含まれる硫黄分の燃焼により発生するものが大部分である。

環境基準の長期的評価については、すべての測定局で達成していた。短期的評価については、1時間値の環境基準（0.1ppm）を超える値が石崎測定局で3時間出現したが、日平均値の環境基準（0.04ppm）を超えた測定局はなかった（表2-4）。長期的評価による環境基準については、昭和55年度以降すべての測定局において達成している。

年平均値及び日平均値の2%除外値の濃度分布を表2-5、6に全国の状況と対比して示したが、本県の二酸化硫黄の濃度は全国的にみて低位のレベルにある。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図2-1のとおり、すべての局で「横ばい」となっている。また、過去5年間の年平均値の経年変化は、図2-2のとおり、概ね横ばい、又はやや減少傾向で推移してきている。

参考までに工場、事業場における石油系燃料使用量の1つの目安として、日本石油連盟調べによる重油販売実績を図2-3に示す。

表 2 - 4 平成 18 年度二酸化硫黄濃度の測定結果

項 目	概 要
年平均値	0.000ppm (能登島) ~ 0.004ppm (三馬)
日平均値の2%除外値(基準0.04ppm)	0.002ppm (能登島) ~ 0.013ppm (石崎)
1時間値の環境基準(0.1ppm)を超えた局及び時間数	石崎(3)
日平均値の環境基準(0.04ppm)を超えた局及び日数	なし

表 2 - 5 二酸化硫黄濃度の年平均値の分布

項目	濃度区分 (ppm)										合計
	0 }	0.0021 }	0.0041 }	0.0061 }	0.0081 }	0.0101 }	0.0121 }	0.0141 }	0.0161 }	0.0181 }	
18年度石川県の測定局数(累積%)	9 (75.0)	3 (100.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	12
17年度全国の測定局数(累積%)	231 (17.5)	685 (69.4)	311 (93.0)	71 (98.4)	18 (99.8)	1 (99.8)	2 (100.0)	0	0	0	1319

表 2 - 6 二酸化硫黄濃度の日平均値の2%除外値の分布

項目	濃 度 区 分 (ppm)				合 計
	0 }	0.011 }	0.021 }	0.031 }	
測 定 局 数	11	1	0	0	12

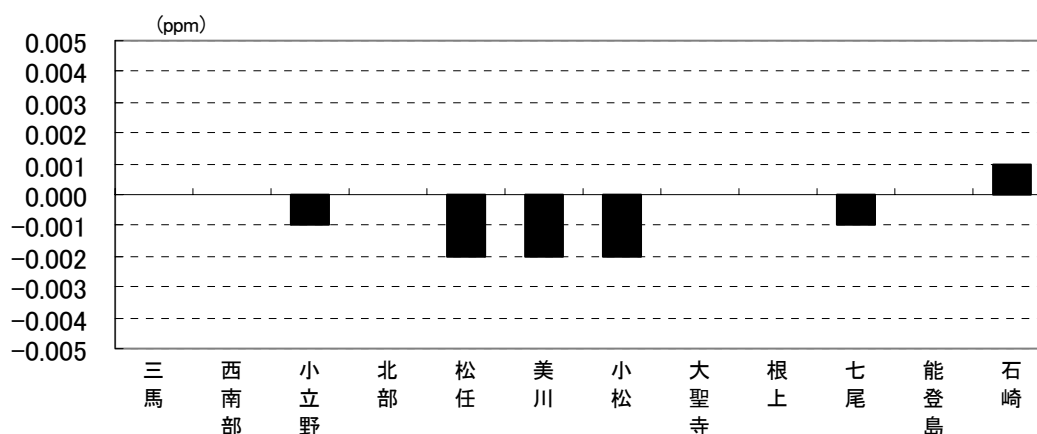


図 2 - 1 二酸化硫黄濃度の年平均値の増減状況 (前年度比較)

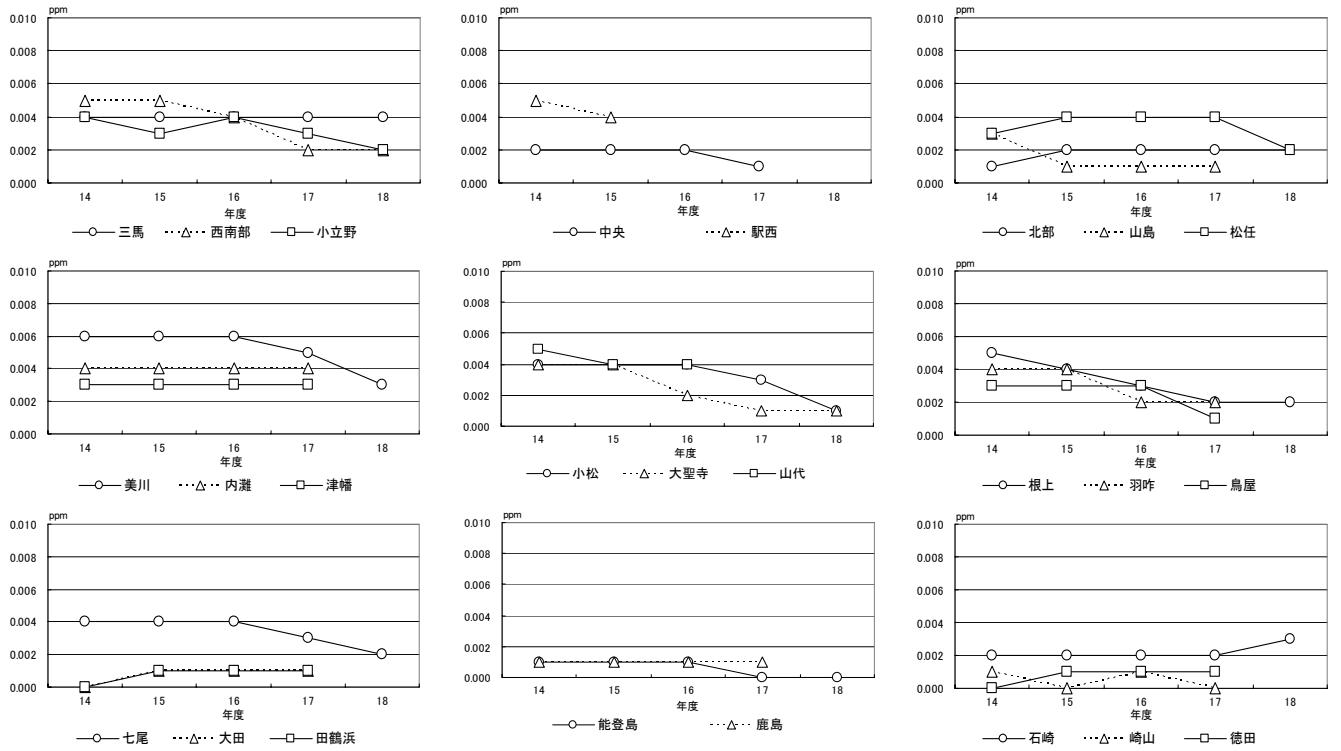


図 2 - 2 二酸化硫黄濃度の経年変化

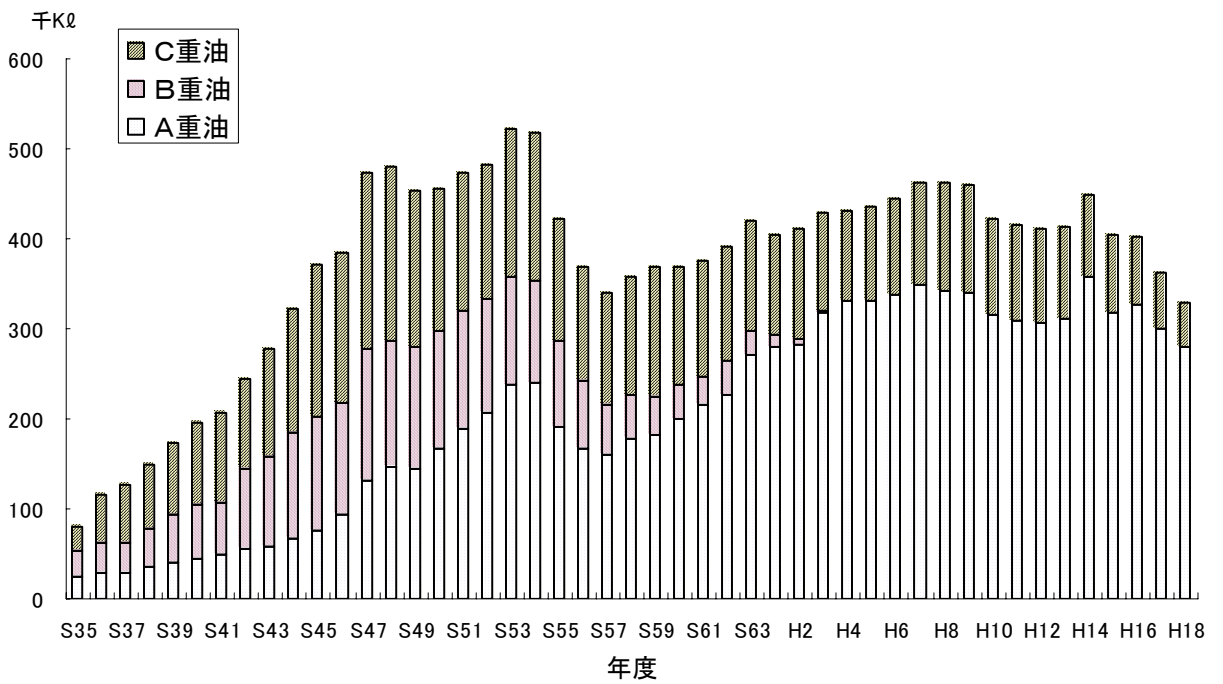


図 2 - 3 石川県における重油販売量の推移

(2) 窒素酸化物（二酸化窒素及び一酸化窒素）

二酸化窒素

大気中の窒素酸化物の大部分は、物の燃焼に伴い発生するもので、主な発生源としては自動車等の移動発生源と工場等の固定発生源があげられる。

環境基準の長期的評価（上限値 0.06ppm）については、表 2 - 7 で示すように、すべての測定局において達成している。なお、環境基準が改正された昭和 53 年度以降すべての測定局において達成している。

年平均値及び日平均値の年間 98% 値の濃度分布をそれぞれ表 2 - 8、9 に全国の状況と対比して示したが、本県の二酸化窒素濃度は、全国的にみて低位のレベルにあり、地域的にみると、金沢地域や小松・加賀地域に比べて七尾・羽咋地域が低い濃度にある。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図 2 - 4 のとおり、全局で「横ばい」となっている。また、過去 5 年間における年平均値の経年変化は、図 2 - 5 のとおり、概ね横ばい傾向で推移している。

表 2 - 7 平成 18 年度二酸化窒素濃度の測定結果

項目	概要
年平均値	0.002ppm(能登島)～0.016ppm(西南部)
日平均値の年間98%値(基準0.06ppm)	0.005ppm(能登島)～0.032ppm(西南部)
日平均値が環境基準のゾーン(0.04～0.06ppm)の値を観測した局及び日数	西南部(1)
日平均値が環境基準の上限値(0.06ppm)を超えた値を観測した局及び日数	なし

表 2 - 8 二酸化窒素濃度の年平均値の分布

濃度区分 (ppm) 項目	0	0.006	0.011	0.016	0.021	0.026	0.031	0.036	0.041	0.046	合計
	0.005	0.010	0.015	0.020	0.025	0.030	0.035	0.040	0.045	以上	
18年度石川県の 測定局数(累積%)	4 (21.1)	7 (57.9)	7 (94.7)	1 (100.0)	0	0	0	0	0	0	19
17年度全国の 測定局数(累積%)	108 (7.6)	281 (27.3)	404 (55.7)	340 (79.6)	200 (93.6)	81 (99.3)	10 (100.0)	0	0	0	1424

表 2-9 二酸化窒素濃度の日平均値の年間 98% 値の分布

項目	濃度区分 (ppm)								合計
	0 }	0.011 }	0.021 }	0.031 }	0.041 }	0.051 }	0.061 }	0.071 }	
	0.010	0.020	0.030	0.040	0.050	0.060	0.070	以上	
18年度石川県の測定局数(累積%)	3 (15.8)	5 (42.1)	10 (94.7)	1 (100.0)	0	0	0	0	19
17年度全国の測定局数(累積%)	65 (4.6)	191 (18.0)	459 (50.2)	416 (79.4)	255 (97.3)	37 (99.9)	1 (100.0)	0	1424

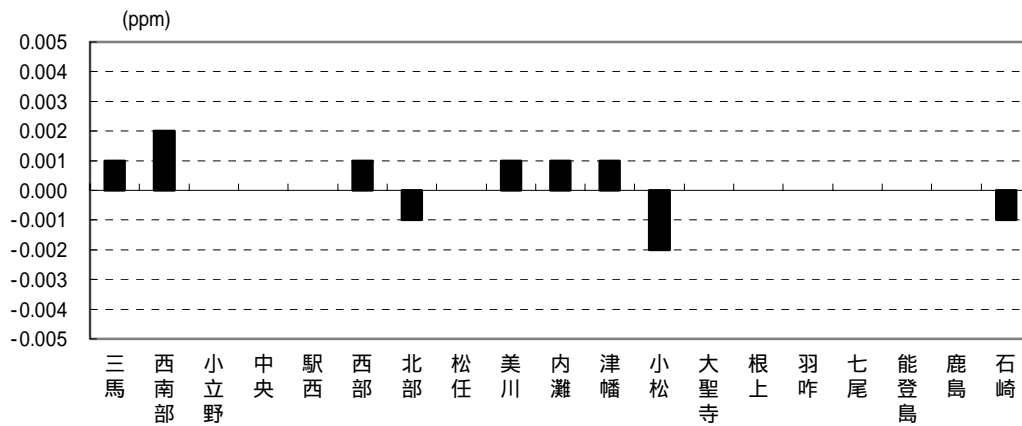


図 2-4 二酸化窒素濃度の年平均値の増減状況 (前年度比較)

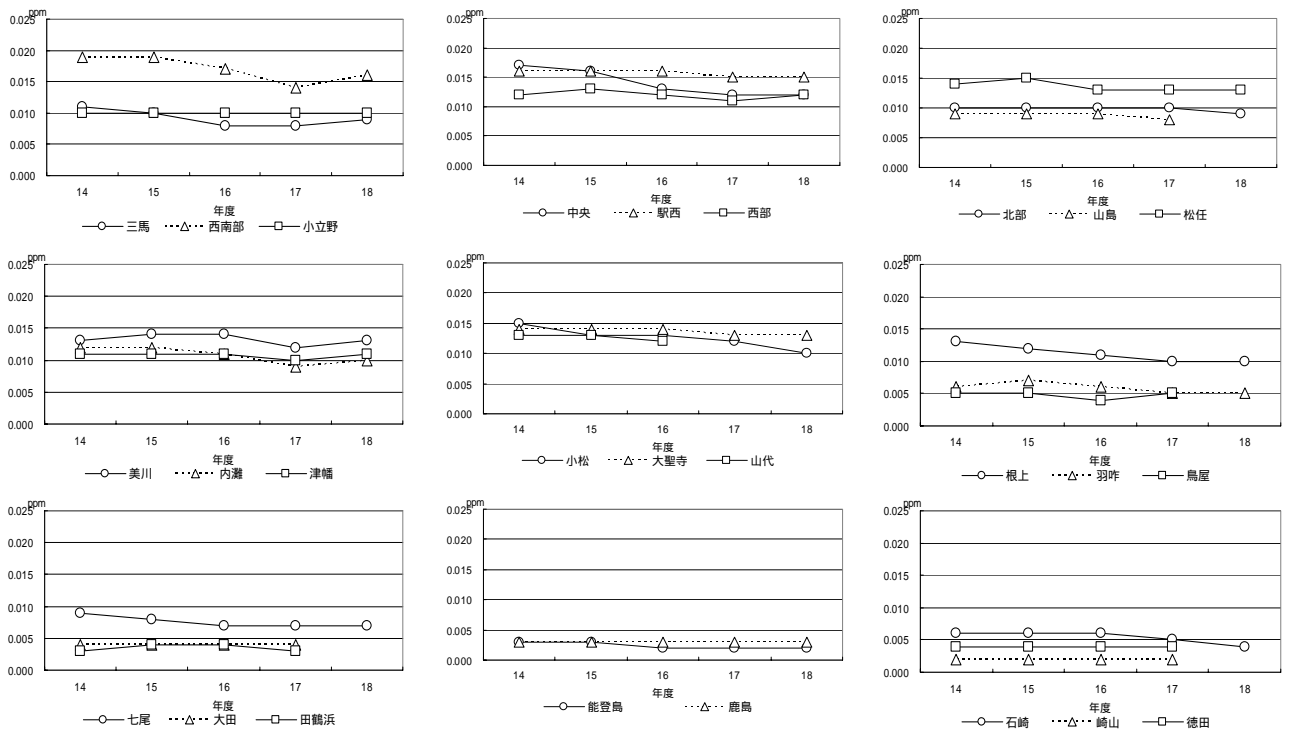


図 2-5 二酸化窒素濃度の経年変化 (年平均値)

② 一酸化窒素

年平均値及び日平均値の年間 98% 値の濃度分布をそれぞれ表 2 - 10、11 に全国の状況と対比して示したが、本県の一酸化窒素濃度は、全国的にみて低位のレベルにある。

この中で、大聖寺、七尾等沿道近郊にある測定局では図 2 - 6 のとおり、一酸化窒素の割合が高く、燃焼過程から発生する窒素酸化物のほとんどが一酸化窒素である自動車排出ガスの影響を強く受けているものと考えられる。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図 2 - 7 のとおり、すべて「横ばい」となっている。また、過去 5 年間の年平均値の経年変化についても、図 2 - 8 のとおり、概ね横ばい傾向で推移している。

表 2 - 10 一酸化窒素濃度の年平均値の分布

項目	濃度区分 (ppm)							合計
	0 }	0.006 }	0.011 }	0.016 }	0.021 }	0.026 }	0.061 }	
	0.010	0.020	0.030	0.040	0.050	0.060	以上	
18年度石川県の測定局数(累積%)	19 (100.0)	0	0	0	0	0	0	19
17年度全国の測定局数(累積%)	1061 (74.5)	334 (98.0)	28 (99.9)	1 (100.0)	0	0	0	1424

表 2 - 11 一酸化窒素濃度の日平均値の年間 98% 値の分布

項目	濃度区分 (ppm)								合計
	0 }	0.011 }	0.021 }	0.031 }	0.041 }	0.051 }	0.061 }	0.071 }	
	0.010	0.020	0.030	0.040	0.050	0.060	0.070	以上	
測定局数(累積%)	8 (42.1)	8 (84.2)	2 (94.7)	1 (100.0)	0	0	0	0	19

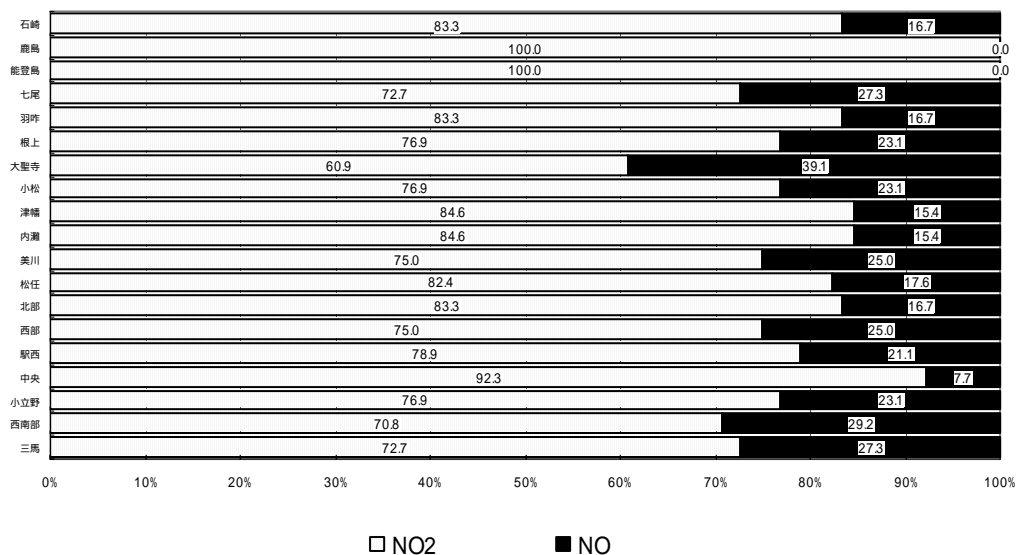


図 2 - 6 一般環境大気測定局におけるNO₂とNOの比率 (平成 18 年度)

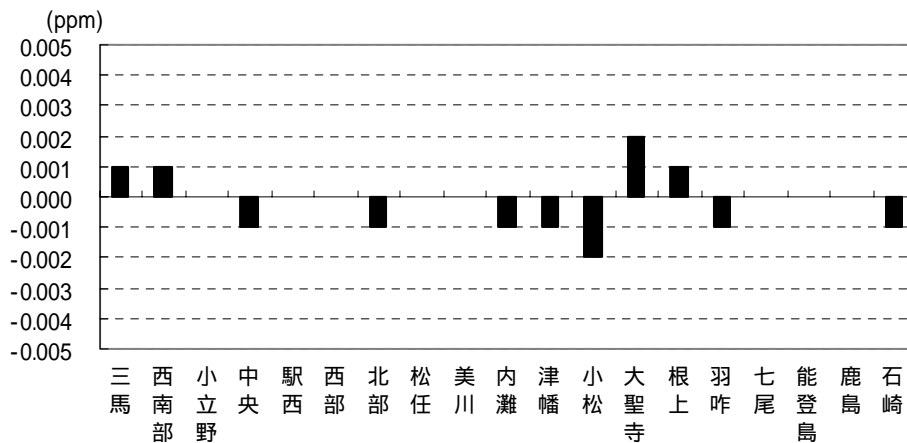


図 2-7 一酸化窒素濃度の年平均値の増減状況（前年度比較）

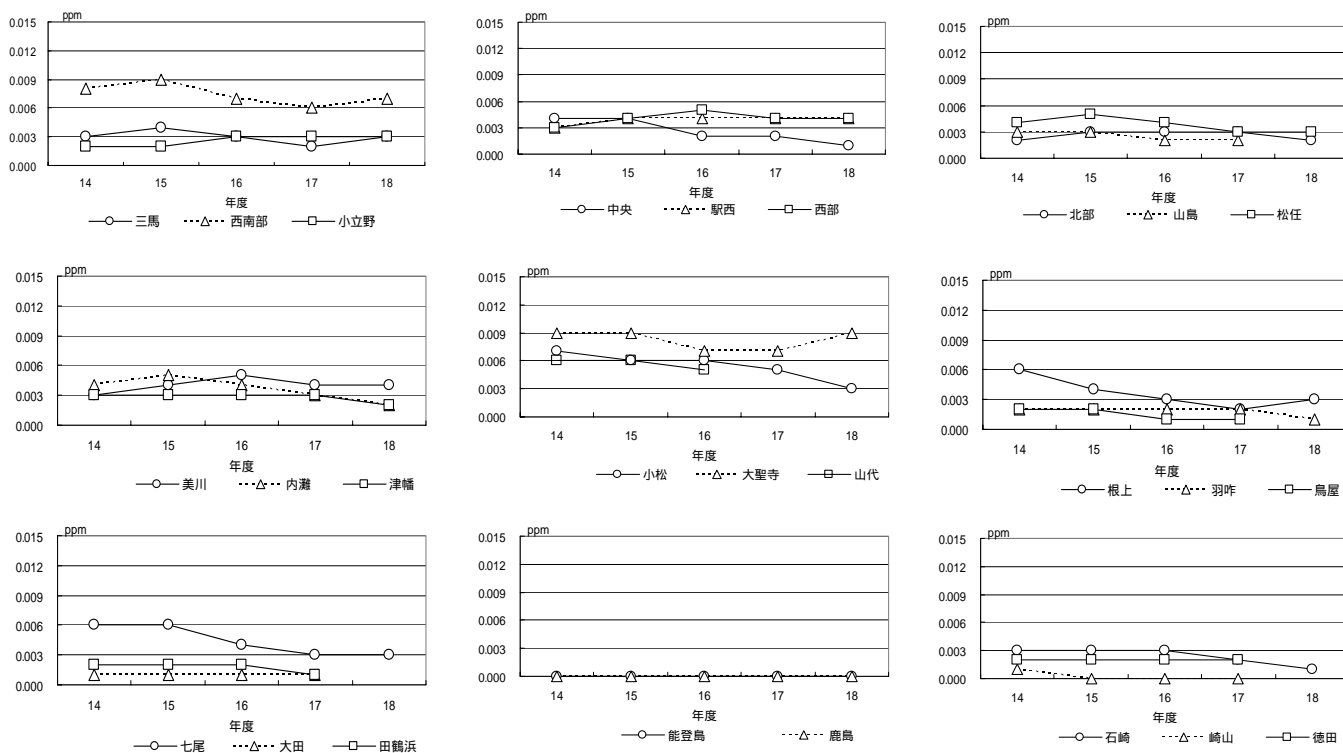


図 2-8 一酸化窒素濃度の経年変化（年平均値）

(3) 一酸化炭素

大気中の一酸化炭素は、その大部分が自動車排出ガスによるものである。

三馬測定局においては長期的評価及び短期的評価とも達成していた（表 2 - 12）。三馬測定局では長期的評価及び短期的評価による環境基準については、昭和 46 年の測定開始から全て達成している。

表 2 - 12 平成 18 年度一酸化炭素濃度の測定結果

項 目	概 要
年 平 均 値	0.3 ppm
日平均値の 2 % 除外値(基準 10ppm)	0.5 ppm
1 時間値の 8 時間平均値の環境基準(20ppm)を超えた局と回数	な し
1 時間値の 1 日平均値の環境基準(10ppm)を超えた局と日数	な し

(4) 光化学オキシダント

光化学大気汚染は、一次汚染物質の窒素酸化物や炭化水素等が太陽光線により光化学反応を起こすことによって二次的に生成される汚染物質によるものであり、光化学オキシダント濃度を指標として測定することになっている。この濃度が高くなると、目への刺激、のどの痛み、胸苦しさを典型的な症状とする健康被害を引き起こす可能性がある。

本県では、大気汚染防止法第 23 条の緊急時の措置規定により、石川県大気汚染緊急時対策実施要綱を策定し、緊急時の発令基準（表 2 - 15）を定める等、緊急時の措置等必要な事項を規定している。本県では昭和 54 年 7 月 7 日、平成 14 年 5 月 22 日及び平成 16 年 6 月 5 日の 3 度発令した事例があるが、平成 18 年度は発令にいたらなかった。

光化学オキシダントの環境基準については、すべての測定局で達成しなかった。環境基準を超えた日数及び時間数は、それぞれ表 2 - 13、14 のとおりである。なお、本県で環境基準が達成されたのは、昭和 46 年の測定開始以来、昭和 57 年度の西南部及び津幡測定局のみである。

昼間（午前 5 時～午後 8 時）における光化学オキシダントの高濃度日（0.100ppm 以上）の出現状況は表 2 - 17 のとおり、2 日で、平成 17 年度と比べて減少している。

環境基準（1 時間値が 0.06ppm 以下）を超過した日数及び時間数を測定日数及び昼間の測定時間数でそれぞれ除した値（出現率）の過去 10 年間の経年変化は、図 2 - 9 のとおりである。

表2-13 昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数の分布

超過日数	0	1	11	21	31	41	51	61	71	81	91	101	計
事項		}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	
	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	以上	
局数	0	0	1	4	2	4	0	8	1	1	0	1	22
割合(%)	0.0	0.0	4.5	18.2	9.1	18.2	0.0	36.4	4.5	4.5	0.0	4.5	100.0
累積(%)	0.0	0.0	4.5	22.7	31.8	50.0	50.0	86.4	90.9	95.5	95.5	100.0	

表2-14 昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数の分布

超過時間数	0	1	51	101	151	201	251	301	351	401	451	501	計
事項		}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	
	0	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	以上	
局数	0	0	3	1	4	1	1	4	3	3	1	1	22
割合(%)	0.0	0.0	13.6	4.5	18.2	4.5	4.5	18.2	13.6	13.6	4.5	4.5	100.0
累積(%)	0.0	0.0	13.6	18.2	36.4	40.9	45.5	63.6	77.3	90.9	95.5	100.0	

表2-15 石川県大気汚染緊急時対策発令基準（光化学オキシダント）

区分	発令基準	解除基準
予報	一以上の測定局の光化学オキシダント測定値が気象条件から見て注意報の状態になるおそれがあると認められるとき。	発令地域内のすべての測定局において、左欄に掲げる各区分別の基準値を下回り、かつ、気象条件から見て、その状態が悪化するおそれなくなつたと認められるとき。
注意報	一以上の測定局の光化学オキシダント測定値の1時間値が0.12ppm以上になり、かつ、気象条件から見てその状態が継続すると認められるとき。	
警報	一以上の測定局の光化学オキシダント測定値の1時間値が0.24ppm以上になり、かつ、気象条件から見てその状態が継続すると認められるとき。	
重大警報	一以上の測定局の光化学オキシダント測定値の1時間値が0.40ppm以上になり、かつ、気象条件から見てその状態が継続すると認められるとき。	

表2-16 平成18年度光化学オキシダント濃度の測定結果

項目	概要
昼間の1時間値の最高値（基準0.06ppm）	0.079ppm（駅西）～0.116ppm（鹿島）
昼間の日最高1時間値の年平均値	0.041ppm（美川）～0.057ppm（鹿島）

表 2-17 昼間の光化学オキシダント高濃度発生状況 (0.100ppm 以上)

月	平成14年度				平成15年度				平成16年度				平成17年度				平成18年度			
	日	発生時刻	局数	最高濃度 (ppm) (発生局)	日	発生時刻	局数	最高濃度 (ppm) (発生局)	日	発生時刻	局数	最高濃度 (ppm) (発生局)	日	発生時刻	局数	最高濃度 (ppm) (発生局)	日	発生時刻	局数	最高濃度 (ppm) (発生局)
4					17	13~16	8	0.104 (三馬等)	10	16~17	1	0.102 (鹿島)	28	14~19	4	0.107 (三馬、山島)				
									11	16	1	0.112 (鹿島)								
									18	12~17	2	0.119 (鹿島)								
									22	15	1	0.102 (鹿島)								
5	22	9~18	13	0.125 (大田)	23	15	1	0.100 (鹿島)	9	7	1	0.101 (小松)	5	14~17	3	0.103 (鹿島)	31	16~18	1	0.102 (鹿島)
	23	15	1	0.104 (三馬)	24	17	2	0.101 (能登島)												
					30	16~20	3	0.105 (大田等)												
6	7	15~18	3	0.105 (大田)	5	16	1	0.100 (大田)	4	12~19	9	0.117 (小松)	10	14~16	1	0.107 (鹿島)	1	13~15	1	0.116 (鹿島)
	8	12	1	0.100 (鹿島)	7	18~20	2	0.106 (大田)	5	10~19	9	0.120 (鹿島)	25	12~14	2	0.101 (大田)				
	13	13~18	1	0.111 (三馬)	8	16	1	0.111 (鹿島)	6	11~17	8	0.114 (小松)								
									17	14~18	3	0.107 (鹿島)								
									24	13~15	3	0.106 (三馬)								
7									7	13		0.101 (三馬)								
									24	12~14		0.104 (三馬)								
									25	14		0.102 (三馬)								
									28	14~16		0.109 (三馬)								
8								13	15	1	0.101 (西部)	30	14	1	0.101 (津幡)					
9																				
10	3	16	1	0.100 (鹿島)																
	5	12~15	2	0.104 (中央)																
11																				
12																				
1																				
2																				
3																				
北陸3県の発令状況	5月22日(石川) 七尾地域に予報				発令なし				6月5日(石川) 七尾地域に予報				発令なし				発令なし			
	6月8日(富山) 滑川地区に注意報								6月5日(富山) 富山、高岡・射水、 新川地域に注意報											
	6月10日(福井) 二州地域に注意報																			

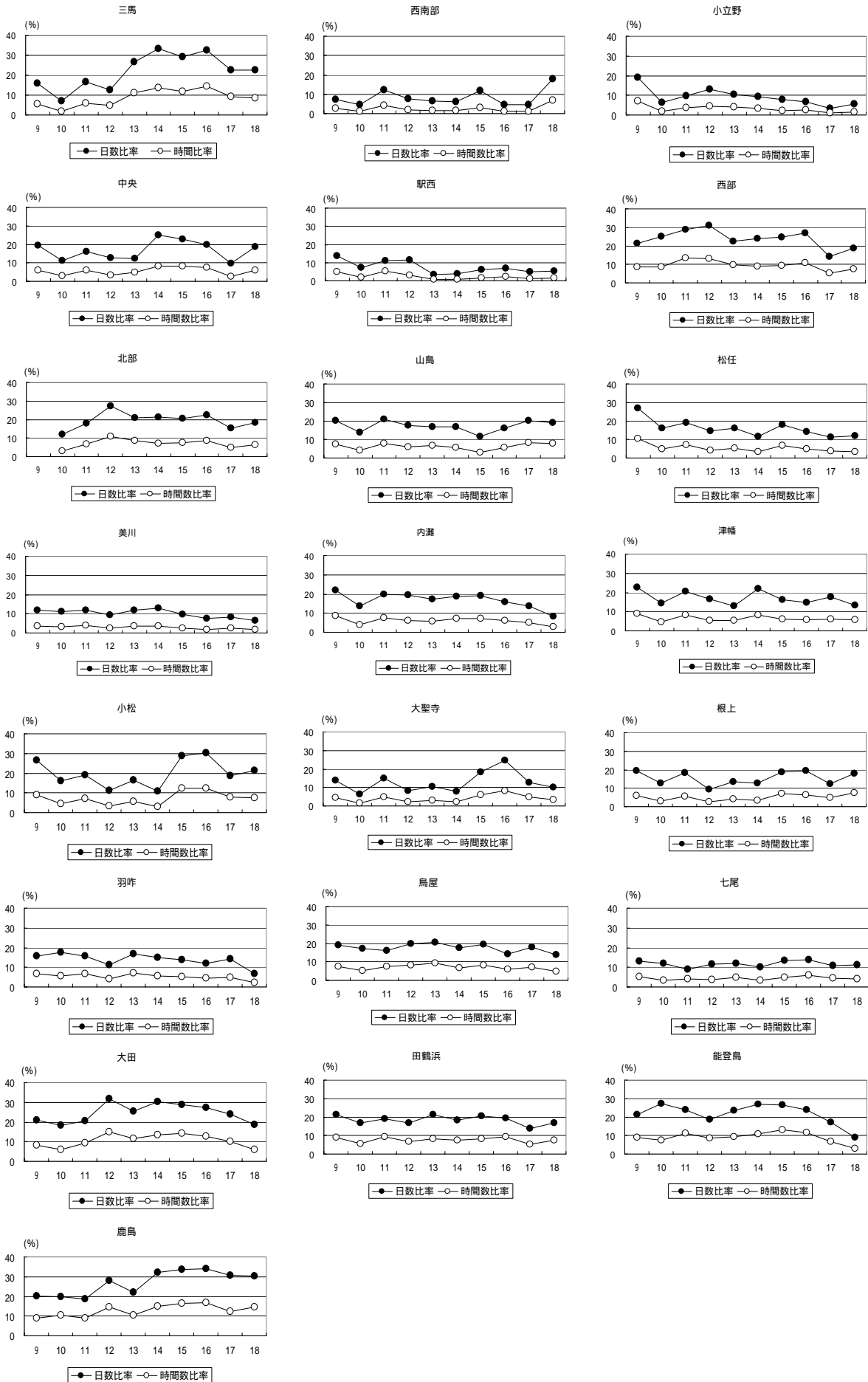


図 2 - 9 光化学オキシダントの環境基準超過日数及び時間数

(5) 浮遊粒子状物質

大気中に浮遊する粒子状物質のうち粒径 10 μm 以下のものは、沈降速度が小さく、大気中に比較的長時間滞留し、人の気道又は肺胞に沈着して呼吸器に影響があるため浮遊粒子状物質として監視を行っている。

環境基準の長期的評価については、全局において環境基準を達成した。

また、短期的評価については、1 時間値の環境基準 (0.20mg/m³) を超える値が津幡測定局など 17 局で出現した (表 2-18)。1 時間値の環境基準超過時間は 40 時間で、平成 17 年度の 7 時間より大幅に増加した。また、日平均値の環境基準 (0.10mg/m³) を超える値が 15 局で各 1 日出現した。この高濃度は金沢地方気象台における黄砂観測日に県下の全測定局で出現しており、黄砂の影響と考えられた。

年平均値及び日平均値の 2% 除外値の濃度分布をそれぞれ表 2-19、20 に全国の状況と対比して示したが、本県の浮遊粒子状物質濃度は全国的にみて低位のレベルにある。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図 2-10 のとおり、「減少」が 2 局、「やや減少」が 3 局、「横ばい」が 15 局となっている。また、過去 5 年間の年平均値の経年変化は、図 2-11 のとおり横ばい傾向である。

表 2-18 平成 18 年度浮遊粒子状物質濃度の測定結果

年平均値	0.016mg/m ³ (能登島)～0.021mg/m ³ (三馬、北部、石崎)
日平均値の2%除外値 (基準0.1mg/m ³)	0.045mg/m ³ (内灘、大田、田鶴浜)～0.057mg/m ³ (三馬、根上)
1 時間値の環境基準 (0.20mg/m ³) を超えた局と時間数	三馬(3)、西南部(2)、小立野(5)、北部(1)、山島(1)、松任(5)、美川(2)、内灘(1)、津幡(7)、小松(1)、根上(1)、羽咋(3)、鳥屋(2)、七尾(1)、能登島(1)、鹿島(2)、石崎(2)
日平均値の環境基準 (0.10mg/m ³) を超えた局と日数	三馬(1)、西南部(1)、小立野(1)、北部(1)、山島(1)、松任(1)、美川(1)、津幡(1)、小松(1)、根上(2)、羽咋(1)、七尾(1)、鳥屋(1)、能登島(1)、鹿島(1)

表 2-19 浮遊粒子状物質濃度の年平均値の分布

濃度区分 (ppm)	0.010)	0.011)	0.021)	0.031)	0.041)	0.051)	0.061)	0.071 以上	合計
項目	以下	0.020	0.030	0.040	0.050	0.060	0.070		
18年度石 川県の測 定局数 (累積%)	0 (0.0)	17 (85.0)	3 (100.0)	0	0	0	0	0	20
17年度全 国の測 定局数 (累積%)	7 (0.5)	239 (16.6)	831 (72.8)	391 (99.2)	12 (100.0)	0	0	0	1480

表 2-20 浮遊粒子状物質濃度の日平均値の2%除外値の分布

項目	濃度区分 (mg/m ³)										合計
	0.020 以下	0.021 0.040	0.041 0.060	0.061 0.080	0.081 0.100	0.101 0.120	0.121 0.140	0.141 0.160	0.161 0.180	0.181 以上	
18年度石川県の 測定局数(累積%)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (95.0)	1 (100.0)	0	0	0	0	0	0	20
17年度全国の 測定局数(累積%)	1 (0.0)	57 (3.9)	536 (40.1)	759 (91.4)	123 (99.7)	4 (100.0)	0	0	0	0	1480

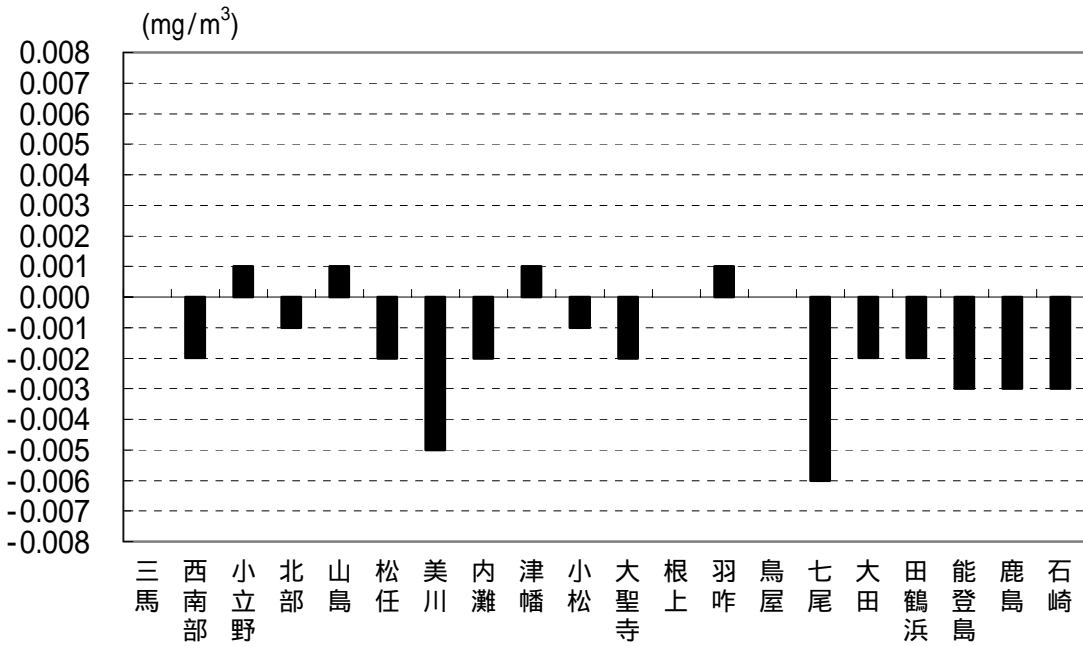


図 2-10 浮遊粒子状物質濃度の年平均値の増減状況 (前年度比較)

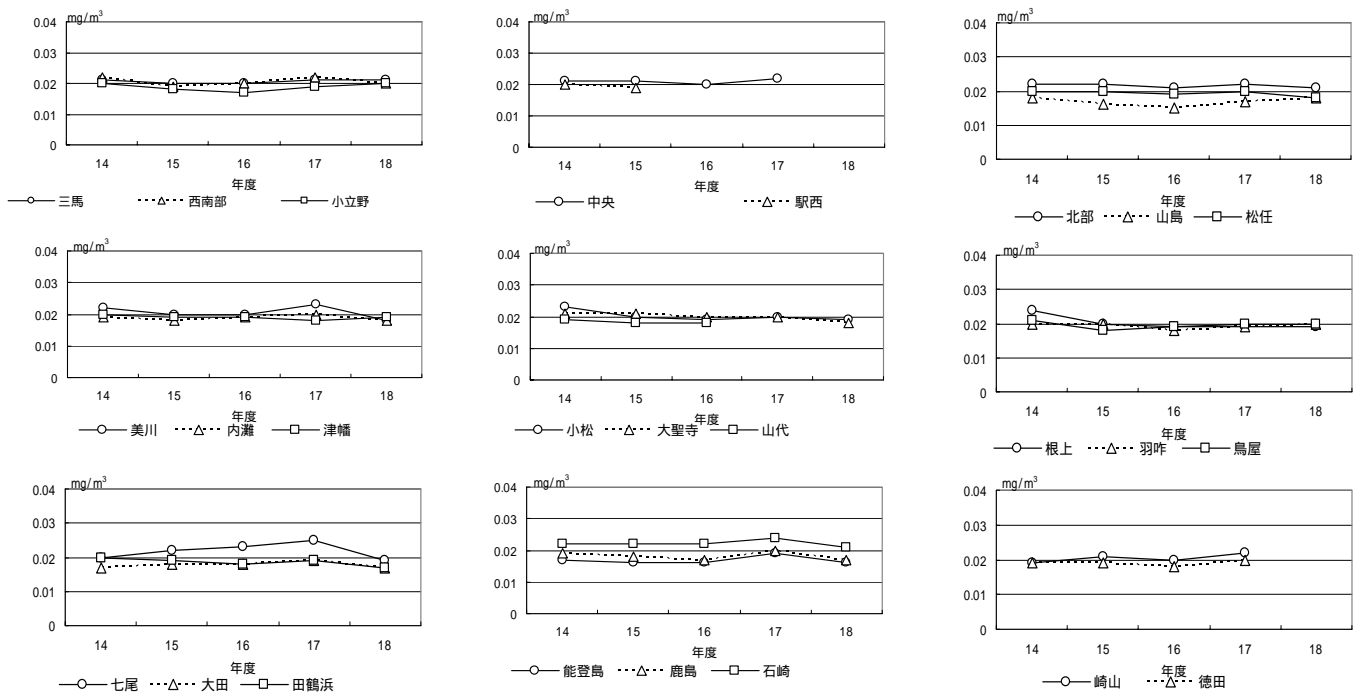


図 2-11 浮遊粒子状物質濃度の経年変化 (年平均値)

(6) 炭化水素（非メタン炭化水素及びメタン）

炭化水素は、主として自然界を発生由来とするメタンと人為汚染により排出される非メタン炭化水素に大別され、光化学大気汚染の主要な原因物質の一つとして注目されている。

環境基準は定められていないが、昭和 51 年、中央公害対策審議会答申「光化学オキシダントの生成防止のための大気中の炭化水素濃度の指針について」において「光化学反応性を無視できるメタンを除いた非メタン炭化水素について、光化学オキシダントの日最高 1 時間値 0.06ppm に対応する午前 6 時から 9 時までの 3 時間平均値は、0.20ppmC から 0.31ppmC（炭素原子数を基準として表した ppm 値）の範囲を指針値とする。」とされている。

過去 5 年間における経年変化は、図 2-12、13 のとおり、横ばいで推移している。

表 2-21 平成 18 年度非メタン炭化水素濃度の測定結果

項目 \ 測定局	三馬測定局	内灘測定局	大田測定局
年平均値	0.12ppmC	0.10ppmC	0.06ppmC
指針値の下限値(0.20ppmC)を超えた日数の割合	5.8%	14.8%	0.6%
指針値の上限値(0.31ppmC)を超えた日数の割合	0.8%	3.7%	0.0%

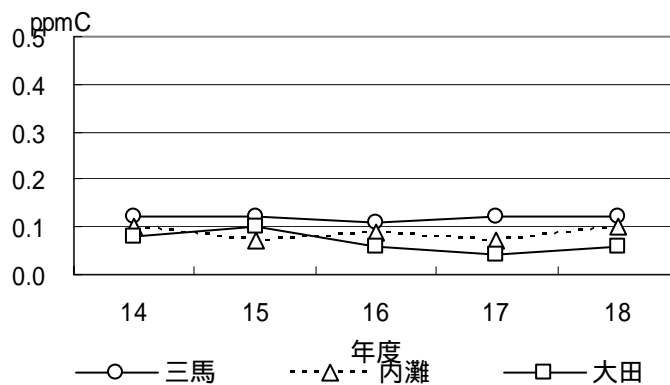


図 2-12 非メタン炭化水素濃度の経年変化（年平均値）

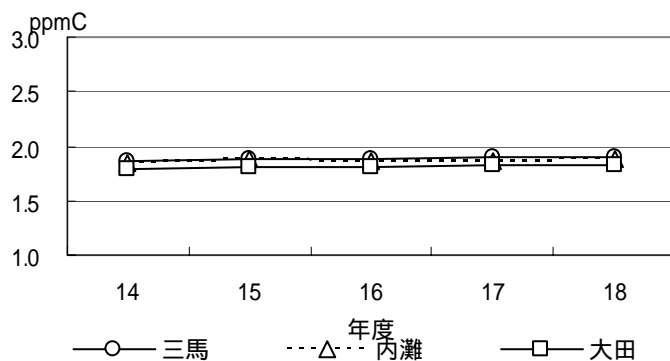


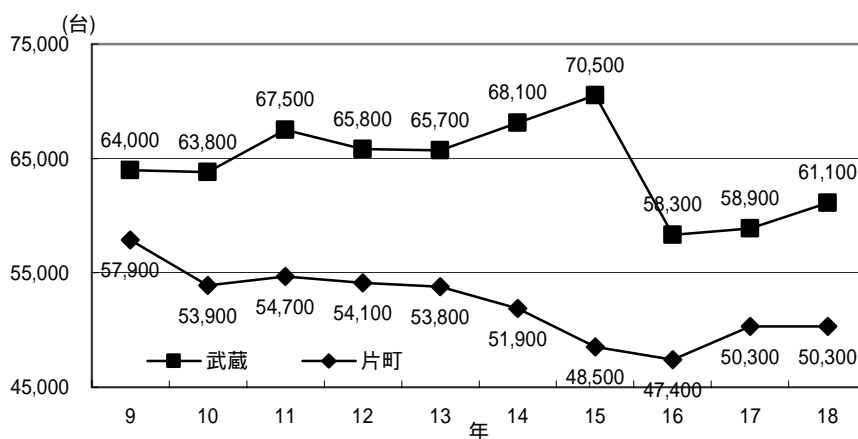
図 2-13 メタン濃度の経年変化（年平均値）

3 自動車排出ガス測定局における汚染状況

自動車排出ガスによる大気汚染は、交通量の増減に大きく左右されるため、参考までに金沢市内の主要な交差点の交通量の推移を図2-14に示す。

本県の自動車排出ガス測定局の測定状況を表2-22に示す。

平成18年度は、すべての測定局が有効測定局であった。



注) 1. この図は県警交通部がまとめた資料をグラフ化したものであり、台数は県警交通部設置の車両感知器により感知された車の1日あたりの平均台数である。
 2. この図の値は、年値(1月～12月)であり、大気汚染物質濃度の年度値(4月～翌年3月)とは3カ月のずれがある。
 3. 武蔵交差点は、平成9年度から、駅前中央通り線の感知台数を加えている。

図2-14 金沢市内主要交差点の全方向流入交通量推移

表2-22 自動車排出ガス測定局における項目別測定状況

項目	二酸化窒素	一酸化窒素	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	非メタン炭化水素	メタン
測定市町数	2	2	3	2	1	1
測定局数	5	5	6	5	1	1
有効測定局数	5	5	6	5	—	—

(注) 有効測定局の扱いをしない項目については、「—」を記した。

(1) 窒素酸化物(二酸化窒素及び一酸化窒素)

① 二酸化窒素

平成18年度の長期的評価(上限値0.06ppm)については、前年度に引き続き全局達成となった(表2-23、24)。

年平均値及び日平均値の年間98%値の濃度分布をそれぞれ表2-25、26に全国の状況と対比して示したが、本県の二酸化窒素濃度は全国的にみて中位のレベルにある。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図2-15のとおり、「やや増加」が1局、「やや減少」が2局、「横ばい」が2局となっている。また、過去5年間における年平均値の経年変化は、図2-16のとおり、概ね横ばいの状況で推移している。

表 2-23 平成 18 年度二酸化窒素濃度の測定結果

項 目	概 要
年平均値	0.022ppm (駅前) ~ 0.037ppm (片町)
日平均値の年間98%値 (基準0.06ppm)	0.035ppm (駅前) ~ 0.054ppm (野々市)
日平均値が環境基準のゾーン (0.04~0.06ppm) の値を観測した局及び日数	片町(162)、野々市(110)、武蔵(86)、藤江(12)、駅前(2)
日平均値が環境基準の上限値 (0.06ppm) を超えた値を観測した局及び日数	野々市(4)、武蔵(1)

表 2-24 二酸化窒素の長期的評価による環境基準適合状況

年 度	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
測定局数	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5
適合局数	3(3)	2(2)	3(3)	4(4)	4(3)	4(3)	4(3)	3(2)	5(4)	5(4)
適合率(%)	75	50	75	100	100	100	100	75	100	100

(注) () 内の数値は、環境基準のゾーン内の測定局数を示す。

表 2-25 二酸化窒素濃度の年平均値の分布

濃度区分 (ppm)	0	0.006	0.011	0.016	0.021	0.026	0.031	0.036	0.041	0.046	合計
	0.005	0.010	0.015	0.020	0.025	0.030	0.035	0.040	0.045	以上	
18年度石川県の 測定局数(累積%)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (40.0)	2 (80.0)	1 (100.0)	0	0	5
17年度全国の 測定局数(累積%)	0 (0.0)	6 (1.4)	25 (1.4)	78 (24.9)	84 (44.2)	96 (66.1)	86 (85.8)	40 (95.0)	17 (98.9)	5 (100.0)	437

表 2-26 二酸化窒素濃度の日平均値の年間 98% 値の分布

濃度区分 (ppm)	0	0.011	0.021	0.031	0.041	0.051	0.061	0.071	0.081	0.091	合計
	0.010	0.020	0.030	0.040	0.050	0.060	0.070	0.080	0.090	以上	
18年度石川県の測 定局数(累積%)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (40.0)	3 (100.0)	0	0	0	0	5
17年度全国の測 定局数(累積%)	0 (0.0)	8 (1.8)	29 (8.5)	116 (35.0)	140 (67.0)	106 (91.3)	30 (98.2)	8 (100.0)	0	0	437

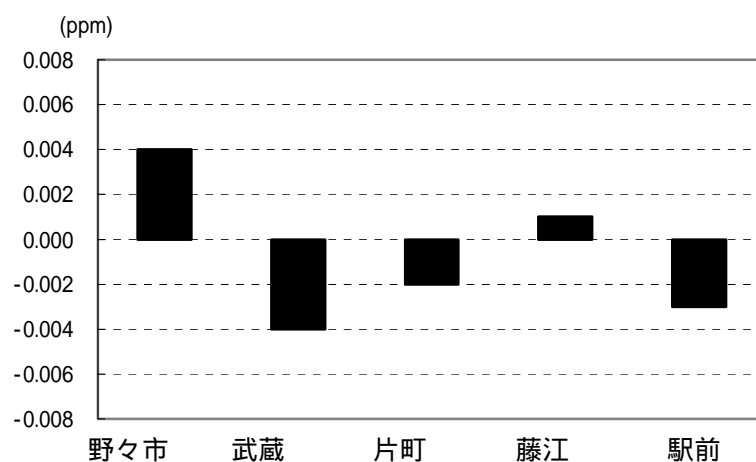


図 2-15 二酸化窒素濃度の年平均値の増減状況(前年度比較)

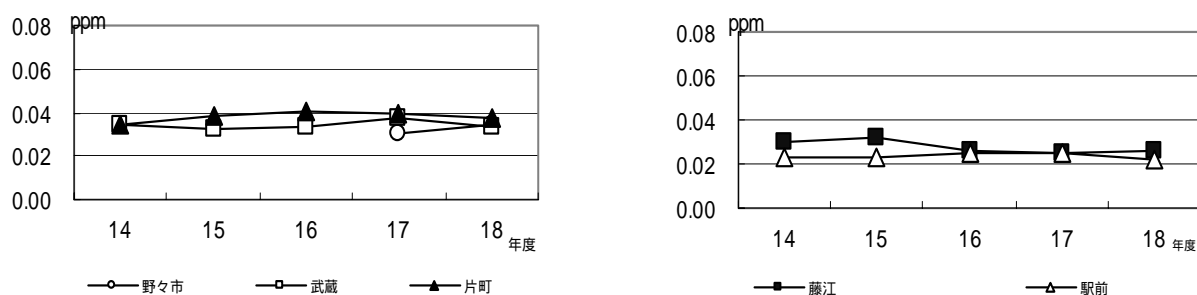


図 2-16 二酸化窒素濃度の経年変化(年平均値)

② 一酸化窒素

年平均値及び日平均値の年間 98%値の濃度分布は、表 2-27、28 のとおりである。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図 2-17 のとおりであり、「横ばい」が 2 局、「減少」が 3 局であった。また、過去 5 年間の年平均値の経年変化は、図 2-18 のとおりである。

表 2-27 一酸化窒素濃度の年平均値の分布

濃度区分 (ppm)	0	0.006	0.011	0.016	0.021	0.026	0.031	0.036	0.041	0.046	0.051	合計
項目	0.005	0.010	0.015	0.020	0.025	0.030	0.035	0.040	0.045	0.050	以上	
測定局数	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	1	5

表 2-28 一酸化窒素濃度の日平均値の年間 98%値の分布

濃度区分 (ppm)	0	0.011	0.021	0.031	0.041	0.051	0.061	0.071	0.081	0.091	0.101	合計
項目	0.010	0.020	0.030	0.040	0.050	0.060	0.070	0.080	0.090	0.100	以上	
測定局数	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	5

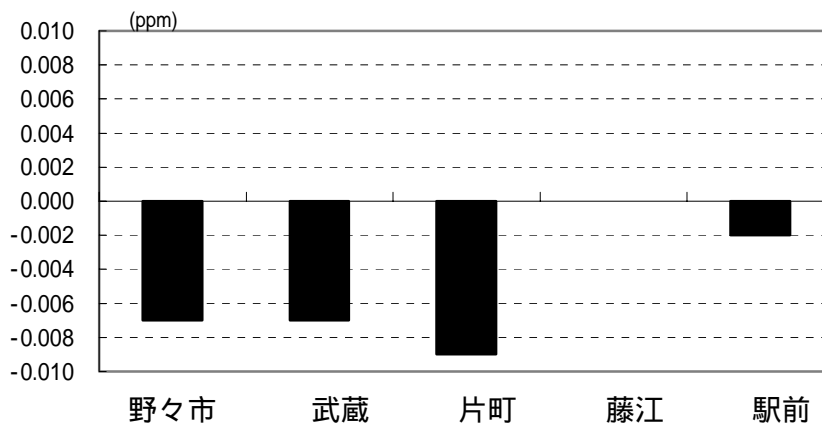


図 2-17 一酸化窒素濃度の年平均値の増減状況（前年度比較）

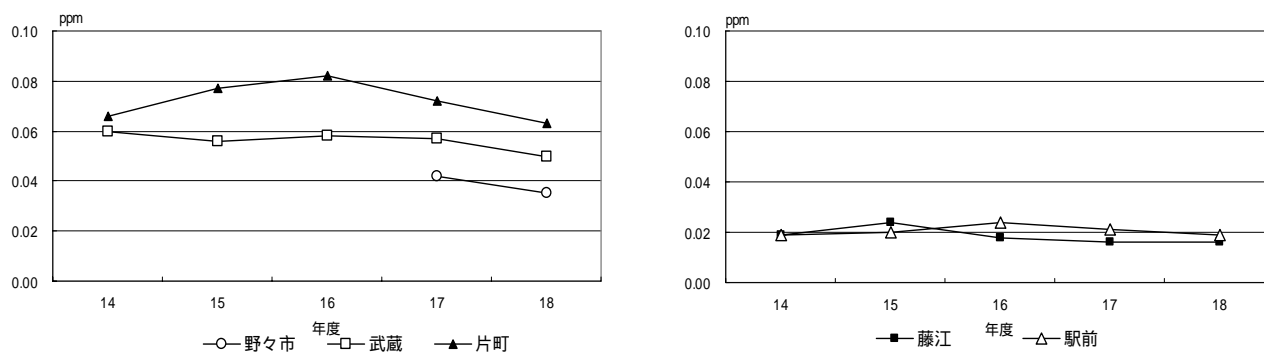


図 2-18 一酸化窒素濃度の経年変化（年平均値）

(2) 一酸化炭素

長期的評価及び短期的評価ともにすべての測定局で達成していた（表 2-29）。これにより、長期的評価による環境基準については昭和 52 年の測定開始から、短期的評価については平成元年から、測定したすべての測定局において達成している。

年平均値及び日平均値の 2% 除外値の濃度分布は、それぞれ表 2-30、31 のとおりである。

年平均値の前年度から見た増減状況については、図 2-19 のとおり、すべての局で「横ばい」であった。

また、過去 5 年間の年平均値の経年変化は、図 2-20 のとおり、横ばい若しくは減少傾向で推移している。

表 2-29 平成 18 年度一酸化炭素濃度の測定結果

項 目	概 要
年平均値	0.4ppm(小松) ~ 1.1ppm(片町)
日平均値の2%除外値(基準10ppm)	0.7ppm(小松) ~ 1.7ppm(片町)
1時間値の環境基準(20ppm)を超えた局と時間数	なし
日平均値の環境基準(10ppm)を超えた局と日数	なし

表 2-30 一酸化炭素濃度の年平均値の分布

濃度区分 (ppm)	0	0.6	1.1	1.6	2.1	2.6	3.1	3.6	4.1	4.6	合計
項目	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	以上	
測定局数	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	6

表 2-31 一酸化炭素濃度の日平均値の2%除外値の分布

濃度区分 (ppm)	0	1.1	2.1	3.1	4.1	5.1	6.1	7.1	8.1	9.1	合計
項目	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	以上	
測定局数	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6

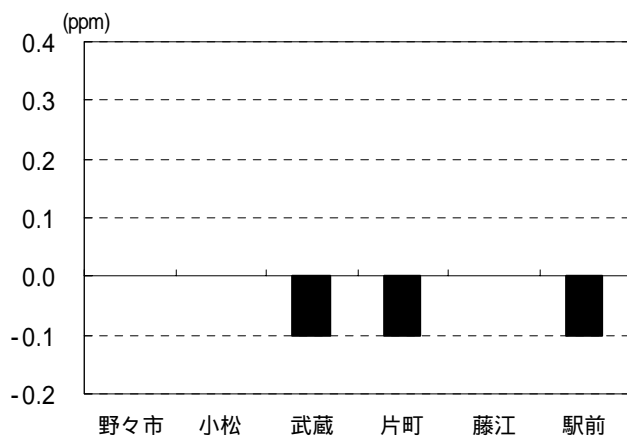


図 2-19 一酸化炭素濃度の年平均値の増減状況 (前年度比較)

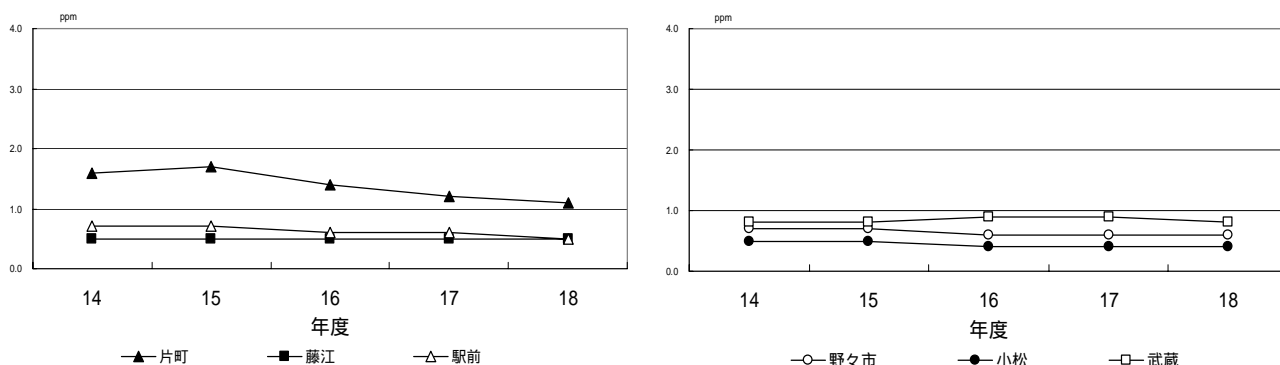


図 2-20 一酸化炭素濃度の経年変化 (年平均値)

(3) 浮遊粒子状物質

長期的評価についてはいずれの測定局も環境基準を達成した。

また、短期的評価では4測定局で1時間値の環境基準（0.20mg/m³）を超える値が出現し、3測定局で日平均値の環境基準（0.10mg/m³）を超える値が出現した（表2-32）。

過去5年間の年平均値の経年変化は、図2-21のとおりである。

表2-32 平成18年度浮遊粒子状物質濃度の測定結果

項目	概要
年平均値	0.020 mg/m ³ (駅前) ~ 0.031 mg/m ³ (片町)
日平均値の2%除外値 (基準0.1mg/m ³)	0.048 mg/m ³ (駅前) ~ 0.065 mg/m ³ (片町)
1時間値の環境基準 (0.20mg/m ³) を超えた時間数	片町(19)、藤江(3)、駅前(3)、野々市(2)
日平均値の環境基準 (0.10mg/m ³) を超えた日数	片町(2)、藤江(1)、野々市(2)

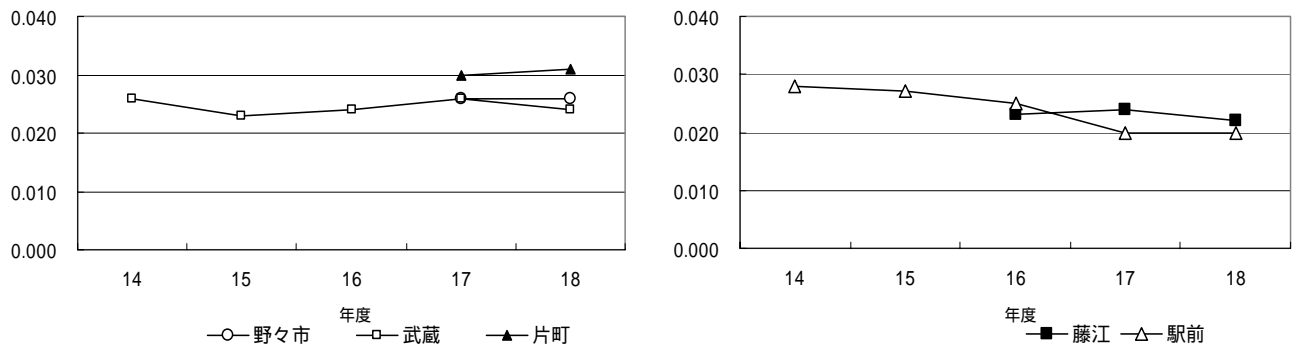


図2-21 浮遊粒子状物質濃度の経年変化

(4) 炭化水素（非メタン炭化水素及びメタン）

非メタン炭化水素とメタンの年平均値は、武蔵測定局で各々0.31ppmC、1.88 ppmCであった。

過去5年間の経年変化は、図2-22、23のとおり、横ばいで推移している。

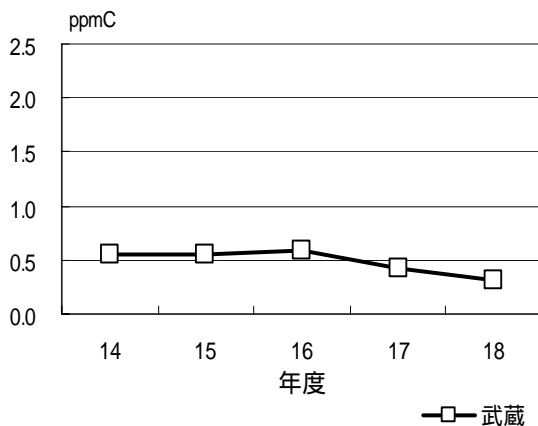


図2-22 非メタン炭化水素濃度の経年変化

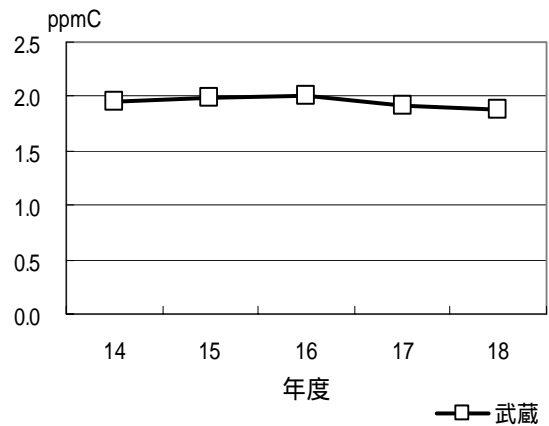


図2-23 メタン濃度の経年変化

4 測定結果

環境大気年間測定結果

(1) 二酸化硫黄

市町村	測定局	令別表第3の区分	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日数が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数
				(日)	(時間)	(ppm)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(ppm)	(ppm)	(有×・無)	(日)
金沢市	三馬	39-	住	365	8712	0.004	0	0	0	0	0.016	0.006		0
金沢市	西南部	39-	住	365	8655	0.002	0	0	0	0	0.044	0.005		0
金沢市	小立野	39-	住	365	8675	0.002	0	0	0	0	0.047	0.006		0
金沢市	北部	39-	住	364	8668	0.002	0	0	0	0	0.028	0.004		0
白山市	松任	39-	住	357	8558	0.002	0	0	0	0	0.015	0.006		0
白山市	美川	39-	未	359	8590	0.003	0	0	0	0	0.088	0.008		0
小松市	小松	100-	準工	362	8614	0.001	0	0	0	0	0.014	0.005		0
加賀市	大聖寺	100-	住	364	8675	0.001	0	0	0	0	0.014	0.003		0
能美市	根上	100-	住	365	8673	0.002	0	0	0	0	0.030	0.006		0
七尾市	七尾	100-	住	362	8677	0.002	0	0	0	0	0.015	0.005		0
七尾市	能登島	100-	未	364	8676	0.000	0	0	0	0	0.011	0.002		0
七尾市	石崎	100-	住	364	8662	0.003	3	0	0	0	0.153	0.013		0

(注) 「環境基準の長期的評価による日平均値0.04ppmを超えた日数」とは日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち0.04ppmを超えた日数である。
 ただし、日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外当日に入っている日数分については除外しない。

(2) 二酸化窒素

市町村	測定局	令別表第3の区分	用途地域	二酸化窒素 (NO ₂)														
				有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.2ppmを超えた時間数とその割合		1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の時間数とその割合		日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数	
				(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(%)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(ppm)	(日)	
金沢市	三馬	39-	住	363	8570	0.009	0.056	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.020	0
金沢市	西南部	39-	住	365	8746	0.016	0.075	0	0	0	0	0	0	1	0.3	0.032	0	
金沢市	小立野	39-	住	365	8679	0.010	0.085	0	0	0	0	0	0	0	0	0.025	0	
金沢市	中央	39-	住	365	8674	0.012	0.060	0	0	0	0	0	0	0	0	0.022	0	
金沢市	駅西	39-	住	365	8683	0.015	0.073	0	0	0	0	0	0	0	0	0.027	0	
金沢市	西部	39-	住	363	8659	0.012	0.075	0	0	0	0	0	0	0	0	0.029	0	
金沢市	北部	39-	住	365	8693	0.009	0.058	0	0	0	0	0	0	0	0	0.020	0	
白山市	松任	39-	住	350	8482	0.013	0.064	0	0	0	0	0	0	0	0	0.024	0	
白山市	美川	39-	未	359	8577	0.013	0.072	0	0	0	0	0	0	0	0	0.024	0	
内灘町	内灘	100-	住	355	8546	0.010	0.062	0	0	0	0	0	0	0	0	0.025	0	
津幡町	津幡	100-	住	353	8413	0.011	0.062	0	0	0	0	0	0	0	0	0.022	0	
小松市	小松	100-	準工	360	8592	0.010	0.065	0	0	0	0	0	0	0	0	0.020	0	
加賀市	大聖寺	100-	住	364	8667	0.013	0.072	0	0	0	0	0	0	0	0	0.025	0	
能美市	根上	100-	住	351	8375	0.010	0.072	0	0	0	0	0	0	0	0	0.021	0	
羽咋市	羽咋	100-	商	352	8447	0.005	0.034	0	0	0	0	0	0	0	0	0.011	0	
七尾市	七尾	100-	住	352	8381	0.007	0.040	0	0	0	0	0	0	0	0	0.015	0	
七尾市	能登島	100-	未	361	8627	0.002	0.017	0	0	0	0	0	0	0	0	0.005	0	
中能登町	鹿島	100-	未	363	8645	0.003	0.033	0	0	0	0	0	0	0	0	0.007	0	
七尾市	石崎	100-	住	355	8523	0.004	0.035	0	0	0	0	0	0	0	0	0.010	0	

(注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出。なお、数値を補正する場合は、昭和53年8月1日付け環大企第287号による。
 2. 「98%値評価による日平均値0.06ppmを超えた日数」とは、1年間の日平均値のうち低い方から98%の範囲にあって、かつ、0.06ppmを超えたものの日数である。

環境大気年間測定結果

(3) 一酸化窒素及び窒素酸化物

市町村	測定局	令別表第3の区分	用途地域	一酸化窒素 (NO)					窒素酸化物 (NO + NO2)					
				有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	年平均値の年間98%値	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	年平均値の年間98%値	年平均値 NO2/(NO+NO2)
				(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(%)
金沢市	三馬	39-	住	363	8571	0.003	0.106	0.009	363	8569	0.011	0.149	0.028	77.2
金沢市	西南部	39-	住	365	8746	0.007	0.220	0.029	365	8746	0.024	0.287	0.063	68.3
金沢市	小立野	39-	住	365	8679	0.003	0.091	0.008	365	8679	0.013	0.139	0.03	79.6
金沢市	中央	39-	住	365	8674	0.001	0.088	0.008	365	8674	0.013	0.130	0.028	88.7
金沢市	駅西	39-	住	365	8683	0.004	0.154	0.017	365	8683	0.019	0.207	0.043	78.4
金沢市	西部	39-	住	363	8659	0.004	0.145	0.019	363	8659	0.016	0.207	0.047	76.5
金沢市	北部	39-	住	365	8693	0.002	0.093	0.009	365	8693	0.012	0.127	0.027	79.0
白山市	松任	39-	住	350	8482	0.003	0.139	0.016	350	8482	0.017	0.183	0.04	79.1
白山市	美川	39-	未	359	8578	0.004	0.163	0.021	359	8577	0.016	0.223	0.038	76.9
内灘町	内灘	100-	住	355	8546	0.002	0.079	0.012	355	8546	0.013	0.127	0.036	81.2
津幡町	津幡	100-	住	353	8413	0.002	0.086	0.012	353	8413	0.013	0.124	0.031	81.5
小松市	小松	100-	準工	359	8583	0.003	0.084	0.014	359	8583	0.013	0.111	0.035	78.9
加賀市	大聖寺	100-	住	364	8665	0.009	0.182	0.036	364	8665	0.023	0.211	0.057	59.5
能美市	根上	100-	住	351	8375	0.003	0.083	0.012	351	8375	0.013	0.110	0.032	78.4
羽咋市	羽咋	100-	商	352	8447	0.001	0.025	0.003	352	8447	0.006	0.047	0.012	84.8
七尾市	七尾	100-	住	352	8381	0.003	0.178	0.012	352	8381	0.011	0.209	0.026	70.8
七尾市	能登島	100-	未	361	8627	0.000	0.031	0.001	361	8627	0.002	0.041	0.006	87.5
中能登町	鹿島	100-	未	363	8645	0.000	0.021	0.001	363	8645	0.003	0.043	0.008	90.9
七尾市	石崎	100-	住	355	8523	0.001	0.074	0.006	355	8523	0.006	0.097	0.016	76.5

(注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルトマン係数を0.84として算出。なお、数値を補正する場合は、昭和53年8月1日付け環大企第287号による。
 2. 「98%値評価による日平均値0.06ppmを超えた日数」とは、1年間の日平均値のうち低い方から98%の範囲にあって、かつ、0.06ppmを超えたものの日数である。

(4) 一酸化炭素

市町村	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	8時間値が20ppmを超えた回数とその割合		日平均値が10ppmを超えた日数とその割合		1時間値が30ppm以上となったことがある日数とその割合		1時間値の最高値	日平均の2%除外値	日平均値が10ppmを超えた日数が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が10ppmを超えた日数
			(日)	(時間)	(ppm)	(回数)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(ppm)	(ppm)	(有×・無)	(日)
金沢市	三馬	住	365	8720	0.3	0	0	0	0	0	0	1.9	0.5		0

(注) 「環境基準の長期的評価による日平均値0.04ppmを超えた日数」とは日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち10ppmを超えた日数である。ただし、日平均値が0.04ppmを超えた日数が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外当日に入っている日数分については除外しない。

環境大気年間測定結果

(5) 光化学オキシダント

市町村	測定局	用途地域	昼間測定日数	昼間測定時間	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数		昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の年平均値
			(日)	(時間)	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)
金沢市	三馬	住	365	5416	0.037	83	466	0	0	0.093	0.050
金沢市	西南部	住	365	5461	0.034	66	378	0	0	0.096	0.048
金沢市	小立野	住	365	5423	0.032	21	90	0	0	0.082	0.042
金沢市	中央	住	365	5462	0.035	68	324	0	0	0.091	0.049
金沢市	駅西	住	365	5422	0.031	20	83	0	0	0.079	0.042
金沢市	西部	住	359	5308	0.037	67	402	0	0	0.089	0.051
金沢市	北部	住	365	5455	0.036	67	346	0	0	0.090	0.049
白山市	山島	未	364	5428	0.038	70	427	0	0	0.094	0.050
白山市	松任	住	362	5334	0.034	43	188	0	0	0.090	0.046
白山市	美川	未	363	5400	0.030	24	100	0	0	0.080	0.041
内灘町	内灘	住	363	5377	0.031	30	164	0	0	0.092	0.042
津幡町	津幡	住	363	5407	0.033	49	308	0	0	0.093	0.046
小松市	小松準工	住	363	5406	0.035	77	400	0	0	0.093	0.048
加賀市	大聖寺	住	365	5447	0.030	37	177	0	0	0.084	0.044
能美市	根上	住	365	5440	0.036	66	409	0	0	0.091	0.049
羽咋市	羽咋商	住	365	5430	0.035	24	112	0	0	0.081	0.044
中能登町	鳥屋	未	365	5442	0.035	50	259	0	0	0.098	0.046
七尾市	七尾	住	365	5442	0.034	41	221	0	0	0.085	0.045
七尾市	大田	未	365	5450	0.039	68	325	0	0	0.092	0.050
七尾市	田鶴浜	未	365	5420	0.037	62	398	0	0	0.089	0.049
七尾市	能登島	未	365	5442	0.035	33	162	0	0	0.087	0.044
中能登町	鹿島	未	365	5450	0.046	111	794	0	0	0.116	0.057

(注) 昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。

(6) 浮遊粒子状物質

市町村	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m3を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m3を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m3を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m3を超えた日数	測定方法
			(日)	(時間)	(mg/m3)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(mg/m3)	(mg/m3)	(有×・無)	(日)	
金沢市	三馬	住	353	8591	0.021	3	0.0	1	0.3	0.325	0.057		0	線吸収法
金沢市	西南部	住	354	8606	0.020	2	0.0	1	0.3	0.283	0.054		0	線吸収法
金沢市	小立野	住	361	8701	0.020	5	0.1	1	0.3	0.293	0.052		0	線吸収法
金沢市	北部	住	361	8708	0.021	1	0.0	1	0.3	0.279	0.055		0	線吸収法
白山市	山島	未	349	8571	0.018	1	0.0	1	0.3	0.234	0.047		0	線吸収法
白山市	松任	住	346	8494	0.018	5	0.1	1	0.3	0.35	0.053		0	線吸収法
白山市	美川	未	347	8520	0.018	2	0.0	1	0.3	0.28	0.048		0	線吸収法
内灘町	内灘	住	348	8530	0.018	1	0.0	0	0	0.233	0.045		0	線吸収法
津幡町	津幡	住	350	8557	0.019	7	0.1	1	0.3	0.265	0.052		0	線吸収法
小松市	小松準工	住	350	8537	0.019	1	0.0	1	0.3	0.281	0.056		0	線吸収法
加賀市	大聖寺	住	353	8608	0.018	0	0	0	0	0.197	0.051		0	線吸収法
能美市	根上	住	355	8630	0.019	1	0.0	2	0.6	0.281	0.057		0	線吸収法
羽咋市	羽咋商	住	355	8630	0.020	3	0.0	1	0.3	0.264	0.053		0	線吸収法
中能登町	鳥屋	未	352	8611	0.020	2	0.0	1	0.3	0.233	0.052		0	線吸収法
七尾市	七尾	住	354	8615	0.019	1	0.0	1	0.3	0.205	0.051		0	線吸収法
七尾市	大田	未	353	8602	0.017	0	0	0	0	0.14	0.045		0	線吸収法
七尾市	田鶴浜	未	353	8603	0.017	0	0	1	0.3	0.189	0.045		0	線吸収法
七尾市	能登島	未	353	8605	0.016	1	0.0	1	0.3	0.238	0.047		0	線吸収法
中能登町	鹿島	未	353	8606	0.017	2	0.0	1	0.3	0.228	0.050		0	線吸収法
七尾市	石崎	住	352	8584	0.021	2	0.0	0	0	0.317	0.056		0	線吸収法

(注) 1. 「環境基準の長期的評価による日平均値0.04ppmを超えた日数」とは日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち10ppmを超えた日数である。ただし、日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外当日に入っている日数分については除外しない。

2. 「測定方法」の欄には、光散乱法、圧電天平法、ベータ線吸収法の別を記入

環境大気年間測定結果

(7) 非メタン炭化水素

市町村	測定局	用途地域	測定時間	年平均値	6～9時 における 年平均値	6～9時 測定日数	6～9時 3時間平均値		6～9時 3時間平均値が 0.20ppmCを超えた 日数とその割合		6～9時 3時間平均値が 0.31ppmCを超えた 日数とその割合		測定方法
							最高値	最低値	(日)	(%)	(日)	(%)	
							(時間)	(ppmC)	(ppmC)	(日)	(ppmC)	(ppmC)	(日)
金沢市	三馬	住	8551	0.12	0.13	361	0.52	0.06	21	5.8	3	0.8	直
内灘町	内灘	住	8363	0.10	0.12	351	0.64	0.00	52	14.8	13	3.7	直
七尾市	大田	未	8586	0.06	0.07	363	0.22	0.00	2	0.6	0	0.0	直

(注) 「測定方式」の欄には直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と記載

(8) メタン及び全炭化水素

市町村	測定局	用途地域	メタン						全炭化水素						測定又は 換算方式
			測定時間	年平均値	6～9時 における 年平均値	6～9時 測定日数	6～9時 3時間平均値		測定時間	年平均値	6～9時 における 年平均値	6～9時 測定日数	6～9時 3時間平均値		
							最高値	最低値					最高値	最低値	
(時間)	(ppmC)	(ppmC)	(日)	(ppmC)	(ppmC)	(時間)	(ppmC)	(ppmC)	(日)	(ppmC)	(ppmC)	(時間)	(ppmC)	(ppmC)	
金沢市	三馬	住	8551	1.90	1.90	361	2.05	1.52	8551	2.03	2.03	361	2.49	1.60	直
内灘町	内灘	住	8364	1.88	1.91	351	2.32	1.73	8363	1.98	2.03	351	2.59	1.77	直
七尾市	大田	未	8586	1.82	1.83	363	2.00	1.71	8586	1.88	1.89	363	2.08	1.73	直

(注) 「測定方式」の欄には非メタン炭化水素測定機で直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と記載

自動車排出ガス測定局年間測定結果

(1) 二酸化窒素

市町村	測定局	令別表第3の区分	用途地域	二酸化窒素 (NO ₂)															
				有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.2ppmを超えた回数とその割合		1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の回数とその割合		日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数		
								(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(時間)	(%)	(時間)	(%)			(日)	(%)
野々市町	(自)野々市	39-住		365	8649	0.034	0.096	0	0	0	0	0	0	4	1.1	110	30.1	0.054	0
金沢市	(自)武蔵	39-商		362	8648	0.033	0.105	0	0	2	0	1	0.3	86	23.8	0.051	0	0	
金沢市	(自)片町	39-商		363	8671	0.037	0.118	0	0	3	0	0	0	162	44.6	0.052	0	0	
金沢市	(自)藤江	39-準工		365	8680	0.026	0.096	0	0	0	0	0	0	12	3.3	0.041	0	0	
金沢市	(自)駅前	39-商		364	8686	0.022	0.106	0	0	1	0	0	0	2	0.5	0.035	0	0	

(注) 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(2) 一酸化窒素及び窒素酸化物

市町村	測定局	令別表第3の区分	用途地域	一酸化窒素 (NO)					窒素酸化物 (NO + NO ₂)					
				有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	年平均値の年間98%値	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	年平均値の年間98%値	年平均値のNO ₂ /(NO+NO ₂)
野々市町	(自)野々市	39-住		365	8649	0.035	0.299	0.096	365	8649	0.069	0.375	0.139	49.2
金沢市	(自)武蔵	39-商		362	8648	0.050	0.326	0.100	362	8648	0.083	0.392	0.138	39.9
金沢市	(自)片町	39-商		363	8671	0.063	0.368	0.120	363	8671	0.100	0.441	0.162	37.4
金沢市	(自)藤江	39-準工		365	8680	0.016	0.222	0.042	365	8680	0.041	0.284	0.079	62.0
金沢市	(自)駅前	39-商		364	8686	0.019	0.168	0.047	364	8686	0.041	0.274	0.073	53.0

(注) 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(3) 一酸化炭素

市町村	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	8時間値が20ppmを超えた回数とその割合		日平均値が10ppmを超えた日数とその割合		1時間値が30ppm以上となったことがある日数とその割合		1時間値の最高値	日平均の2%除外値	日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が10ppmを超えた日数
						(回数)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)				
						(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)				
野々市町	(自)野々市	住	365	8725	0.6	0	0	0	0	0	4.1	0.9		0	
小松市	(自)小松	商	365	8728	0.4	0	0	0	0	0	2.9	0.7		0	
金沢市	(自)武蔵	商	362	8654	0.8	0	0	0	0	0	4.3	1.2		0	
金沢市	(自)片町	商	365	8700	1.1	0	0	0	0	0	12.9	1.7		0	
金沢市	(自)藤江	準工	365	8697	0.5	0	0	0	0	0	2.1	0.8		0	
金沢市	(自)駅前	商	365	8679	0.5	0	0	0	0	0	1.9	0.8		0	

(注) 「環境基準の長期的評価による日平均値0.04ppmを超えた日数」とは日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち10ppmを超えた日数である。
ただし、日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外当日に入っている日数分については除外しない。

(4) 浮遊粒子状物質

市町村	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた回数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均の2%除外値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数	測定方法
						(回数)	(%)	(日)	(%)					
						(日)	(時間)	(mg/m ³)	(mg/m ³)					
野々市町	(自)野々市	住	355	8640	0.026	2	0.0	2	0.6	0.300	0.062		0	線吸収法
金沢市	(自)武蔵	商	361	8697	0.024	0	0	0	0	0.189	0.056		0	線吸収法
金沢市	(自)片町	商	363	8729	0.031	19	0.2	2	0.6	0.475	0.065		0	線吸収法
金沢市	(自)藤江	準工	361	8699	0.022	3	0.0	1	0.3	0.315	0.058		0	線吸収法
金沢市	(自)駅前	商	361	8704	0.020	3	0.0	0	0	0.260	0.048		0	線吸収法

(注) 1. 「環境基準の長期的評価による日平均値0.04ppmを超えた日数」とは日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち10ppmを超えた日数である。
ただし、日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続した延べ日数のうち、2%除外当日に入っている日数分については除外しない。
2. 「測定方法」の欄には、光散乱法、圧電及びβ法、ベータ線吸収法の別を記入

(5) 非メタン炭化水素

市町村	測定局	用途地域	測定時間	年平均値	6-9時における年平均値	6-9時測定日数	6-9時3時間平均値		6-9時3時間平均値が0.20ppmCを超えた日数とその割合		6-9時3時間平均値が0.31ppmCを超えた日数とその割合		測定方法
							最高値	最低値	(日)	(%)	(日)	(%)	
							(ppmC)	(ppmC)	(日)	(%)	(日)	(%)	
金沢市	(自)武蔵	商	8653	0.31	0.27	365	0.71	0.06	264	72.3	103	28.2	直

(注) 「測定方式」の欄には直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と記載

(6) メタン及び全炭化水素

市町村	測定局	用途地域	メタン						全炭化水素					測定又は換算方式	
			測定時間	年平均値	6-9時における年平均値	6-9時測定日数	6-9時3時間平均値		測定時間	年平均値	6-9時における年平均値	6-9時測定日数	6-9時3時間平均値		
							最高値	最低値					(時間)		(ppmC)
金沢市	(自)武蔵	商	8653	1.88	1.89	365	2.09	1.74	8653	2.19	2.16	365	2.63	1.91	直

(注) 「測定方式」の欄には非メタン炭化水素測定機で直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と記載

環境大気測定局経年変化

(1) 二酸化硫黄（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
金沢市	三馬	住	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
金沢市	西南部	住	0.005	0.005	0.004	0.002	0.002
金沢市	小立野	住	0.004	0.003	0.004	0.003	0.002
金沢市	中央	住	0.002	0.002	0.002	0.001	
金沢市	駅西	住	0.005	0.004			
金沢市	北部	住	0.001	0.002	0.002	0.002	0.002
白山市	山島	未	0.003	0.001	0.001	0.001	
白山市	松任	住	0.003	0.004	0.004	0.004	0.002
白山市	美川	未	0.006	0.006	0.006	0.005	0.003
内灘町	内灘	住	0.004	0.004	0.004	0.004	
津幡町	津幡	住	0.003	0.003	0.003	0.003	
小松市	小松	準工	0.004	0.004	0.004	0.003	0.001
加賀市	大聖寺	住	0.004	0.004	0.002	0.001	0.001
能美市	根上	住	0.005	0.004	0.003	0.002	0.002
羽咋市	羽咋	商	0.004	0.004	0.002	0.002	
中能登町	鳥屋	未	0.003	0.003	0.003	0.001	
七尾市	七尾	住	0.004	0.004	0.004	0.003	0.002
七尾市	大田	未	0.000	0.001	0.001	0.001	
七尾市	田鶴浜	未	0.000	0.001	0.001	0.001	
七尾市	能登島	未	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000
中能登町	鹿島	未	0.001	0.001	0.001	0.001	
七尾市	石崎	住	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003

(2) 一酸化窒素（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
金沢市	三馬	住	0.003	0.004	0.003	0.002	0.003
金沢市	西南部	住	0.008	0.009	0.007	0.006	0.007
金沢市	小立野	住	0.002	0.002	0.003	0.003	0.003
金沢市	中央	住	0.004	0.004	0.002	0.002	0.001
金沢市	駅西	住	0.003	0.004	0.004	0.004	0.004
金沢市	西部	住	0.003	0.004	0.005	0.004	0.004
金沢市	北部	住	0.002	0.003	0.003	0.003	0.002
白山市	山島	未	0.003	0.003	0.002	0.002	
白山市	松任	住	0.004	0.005	0.004	0.003	0.003
白山市	美川	未	0.003	0.004	0.005	0.004	0.004
内灘町	内灘	住	0.004	0.005	0.004	0.003	0.002
津幡町	津幡	住	0.003	0.003	0.003	0.003	0.002
小松市	小松	準工	0.007	0.006	0.006	0.005	0.003
加賀市	大聖寺	住	0.009	0.009	0.007	0.007	0.009
能美市	根上	住	0.006	0.004	0.003	0.002	0.003
羽咋市	羽咋	商	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001
中能登町	鳥屋	未	0.002	0.002	0.001	0.001	
七尾市	七尾	住	0.006	0.006	0.004	0.003	0.003
七尾市	大田	未	0.001	0.001	0.001	0.001	
七尾市	田鶴浜	未	0.002	0.002	0.002	0.001	
七尾市	能登島	未	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
中能登町	鹿島	未	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
七尾市	石崎	住	0.003	0.003	0.003	0.002	0.001

(注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出

2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

環境大気測定局経年変化

(3) 二酸化窒素（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
金沢市	三馬	住	0.011	0.010	0.008	0.008	0.009
金沢市	西南部	住	0.019	0.019	0.017	0.014	0.016
金沢市	小立野	住	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
金沢市	中央	住	0.017	0.016	0.013	0.012	0.012
金沢市	駅西	住	0.016	0.016	0.016	0.015	0.015
金沢市	西部	住	0.012	0.013	0.012	0.011	0.012
金沢市	北部	住	0.010	0.010	0.010	0.010	0.009
白山市	山島	未	0.009	0.009	0.009	0.008	
白山市	松任	住	0.014	0.015	0.013	0.013	0.013
白山市	美川	未	0.013	0.014	0.014	0.012	0.013
内灘町	内灘	住	0.012	0.012	0.011	0.009	0.010
津幡町	津幡	住	0.011	0.011	0.011	0.010	0.011
小松市	小松	準工	0.015	0.013	0.013	0.012	0.010
加賀市	大聖寺	住	0.014	0.014	0.014	0.013	0.013
能美市	根上	住	0.013	0.012	0.011	0.010	0.010
羽咋市	羽咋	商	0.006	0.007	0.006	0.005	0.005
中能登町	鳥屋	未	0.005	0.005	0.004	0.005	
七尾市	七尾	住	0.009	0.008	0.007	0.007	0.007
七尾市	大田	未	0.004	0.004	0.004	0.004	
七尾市	田鶴浜	未	0.003	0.004	0.004	0.003	
七尾市	能登島	未	0.003	0.003	0.002	0.002	0.002
中能登町	鹿島	未	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
七尾市	石崎	住	0.006	0.006	0.006	0.005	0.004

(注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出

2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(4) 二酸化窒素（日平均値の年間98%値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	日平均値の年間98%値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
金沢市	三馬	住	0.021	0.022	0.018	0.018	0.020
金沢市	西南部	住	0.034	0.036	0.032	0.028	0.032
金沢市	小立野	住	0.018	0.019	0.021	0.022	0.025
金沢市	中央	住	0.032	0.030	0.025	0.023	0.022
金沢市	駅西	住	0.026	0.029	0.029	0.029	0.027
金沢市	西部	住	0.025	0.031	0.029	0.029	0.029
金沢市	北部	住	0.019	0.020	0.020	0.023	0.020
白山市	山島	未	0.019	0.020	0.018	0.017	
白山市	松任	住	0.026	0.030	0.026	0.027	0.024
白山市	美川	未	0.023	0.026	0.026	0.023	0.024
内灘町	内灘	住	0.029	0.029	0.027	0.024	0.025
津幡町	津幡	住	0.022	0.022	0.022	0.022	0.022
小松市	小松	準工	0.029	0.026	0.027	0.028	0.020
加賀市	大聖寺	住	0.025	0.023	0.023	0.024	0.025
能美市	根上	住	0.026	0.023	0.023	0.021	0.021
羽咋市	羽咋	商	0.013	0.015	0.013	0.010	0.011
中能登町	鳥屋	未	0.016	0.014	0.011	0.013	
七尾市	七尾	住	0.020	0.019	0.016	0.016	0.015
七尾市	大田	未	0.008	0.009	0.009	0.010	
七尾市	田鶴浜	未	0.011	0.009	0.010	0.009	
七尾市	能登島	未	0.007	0.006	0.006	0.005	0.005
中能登町	鹿島	未	0.007	0.007	0.007	0.007	0.007
七尾市	石崎	住	0.016	0.016	0.015	0.014	0.010

(注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出

2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

環境大気測定局経年変化

(5) 窒素酸化物（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
金沢市	三馬	住	0.014	0.014	0.011	0.010	0.011
金沢市	西南部	住	0.027	0.028	0.024	0.020	0.024
金沢市	小立野	住	0.011	0.012	0.013	0.013	0.013
金沢市	中央	住	0.021	0.021	0.015	0.014	0.013
金沢市	駅西	住	0.019	0.019	0.020	0.019	0.019
金沢市	西部	住	0.015	0.017	0.018	0.016	0.016
金沢市	北部	住	0.012	0.013	0.014	0.013	0.012
白山市	山島	未	0.012	0.012	0.011	0.010	
白山市	松任	住	0.018	0.020	0.017	0.016	0.017
白山市	美川	未	0.016	0.018	0.019	0.016	0.016
内灘町	内灘	住	0.016	0.017	0.015	0.013	0.013
津幡町	津幡	住	0.014	0.014	0.014	0.013	0.013
小松市	小松	準工	0.022	0.019	0.019	0.017	0.013
加賀市	大聖寺	住	0.023	0.023	0.021	0.020	0.023
能美市	根上	住	0.019	0.015	0.014	0.012	0.013
羽咋市	羽咋	商	0.008	0.009	0.007	0.006	0.006
中能登町	鳥屋	未	0.007	0.008	0.005	0.006	
七尾市	七尾	住	0.015	0.015	0.011	0.010	0.011
七尾市	大田	未	0.005	0.005	0.005	0.004	
七尾市	田鶴浜	未	0.005	0.005	0.005	0.005	
七尾市	能登島	未	0.003	0.003	0.003	0.002	0.002
中能登町	鹿島	未	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003
七尾市	石崎	住	0.009	0.009	0.009	0.007	0.006

（注）年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は（ ）で示す。

(6) 一酸化炭素（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
金沢市	三馬	住	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3

（注）年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は（ ）で示す。

環境大気測定局経年変化

(7) 光化学オキシダント(昼間の1時間値の年平均値経年変化)

市町村	測定局	用途地域	昼間の1時間値の年平均値(ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
金沢市	三馬	住	0.042	0.039	0.042	0.036	0.037
金沢市	西南部	住	0.029	0.030	0.026	0.027	0.034
金沢市	小立野	住	0.032	0.029	0.026	0.025	0.032
金沢市	中央	住	0.034	0.033	0.032	0.030	0.035
金沢市	駅西	住	0.028	0.028	0.028	0.028	0.031
金沢市	西部	住	0.037	0.036	0.038	0.033	0.037
金沢市	北部	住	0.036	0.036	0.036	0.034	0.036
白山市	山島	未	0.036	0.033	0.034	0.036	0.038
白山市	松任	住	0.033	0.034	0.033	0.033	0.034
白山市	美川	未	0.033	0.031	0.030	0.032	0.030
内灘町	内灘	住	0.036	0.036	0.034	0.035	0.031
津幡町	津幡	住	0.035	0.033	0.033	0.033	0.033
小松市	小松	準工	0.031	0.037	0.038	0.033	0.035
加賀市	大聖寺	住	0.029	0.032	0.035	0.031	0.030
能美市	根上	住	0.034	0.036	0.037	0.033	0.036
羽咋市	羽咋	商	0.037	0.035	0.034	0.037	0.035
中能登町	鳥屋	未	0.037	0.037	0.036	0.038	0.035
七尾市	七尾	住	0.034	0.035	0.035	0.032	0.034
七尾市	大田	未	0.043	0.042	0.042	0.042	0.039
七尾市	田鶴浜	未	0.037	0.038	0.037	0.035	0.037
七尾市	能登島	未	0.043	0.042	0.042	0.039	0.035
中能登町	鹿島	未	0.046	0.045	0.046	0.044	0.046

(注) 昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。

(8) 光化学オキシダント(昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数経年変化)

市町村	測定局	用途地域	昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数(日)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
金沢市	三馬	住	0	0	0	0	0
金沢市	西南部	住	0	0	0	0	0
金沢市	小立野	住	0	0	0	0	0
金沢市	中央	住	0	0	0	0	0
金沢市	駅西	住	0	0	0	0	0
金沢市	西部	住	0	0	0	0	0
金沢市	北部	住	0	0	0	0	0
白山市	山島	未	0	0	0	0	0
白山市	松任	住	0	0	0	0	0
白山市	美川	未	0	0	0	0	0
内灘町	内灘	住	0	0	0	0	0
津幡町	津幡	住	0	0	0	0	0
小松市	小松	準工	0	0	0	0	0
加賀市	大聖寺	住	0	0	0	0	0
能美市	根上	住	0	0	0	0	0
羽咋市	羽咋	商	0	0	0	0	0
中能登町	鳥屋	未	0	0	0	0	0
七尾市	七尾	住	0	0	0	0	0
七尾市	大田	未	1	0	0	0	0
七尾市	田鶴浜	未	0	0	0	0	0
七尾市	能登島	未	0	0	0	0	0
中能登町	鹿島	未	1	0	1	0	0

(注) 昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。

環境大気測定局経年変化

(9) 浮遊粒子状物質（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (mg/m ³)					測定方式
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
金沢市	三馬	住	0.021	0.020	0.020	0.021	0.021	線吸収法
金沢市	西南部	住	0.022	0.019	0.020	0.022	0.020	線吸収法
金沢市	小立野	住	0.020	0.018	0.017	0.019	0.020	線吸収法
金沢市	中央	住	0.021	0.021	0.020	0.022		
金沢市	駅西	住	0.020	0.019				
金沢市	北部	住	0.022	0.022	0.021	0.022	0.021	線吸収法
白山市	山島	未	0.018	0.016	0.015	0.017	0.018	線吸収法
白山市	松任	住	0.020	0.020	0.019	0.020	0.018	線吸収法
白山市	美川	未	0.022	0.020	0.020	0.023	0.018	線吸収法
内灘町	内灘	住	0.019	0.018	0.019	0.020	0.018	線吸収法
津幡町	津幡	住	0.020	0.019	0.019	0.018	0.019	線吸収法
小松市	小松	準工	0.023	0.020	0.019	0.020	0.019	線吸収法
加賀市	大聖寺	住	0.021	0.021	0.020	0.020	0.018	線吸収法
能美市	根上	住	0.024	0.020	0.019	0.019	0.019	線吸収法
羽咋市	羽咋	商	0.020	0.020	0.018	0.019	0.020	線吸収法
中能登町	鳥屋	未	0.021	0.018	0.019	0.020	0.020	線吸収法
七尾市	七尾	住	0.020	0.022	0.023	0.025	0.019	線吸収法
七尾市	大田	未	0.017	0.018	0.018	0.019	0.017	線吸収法
七尾市	田鶴浜	未	0.020	0.019	0.018	0.019	0.017	線吸収法
七尾市	能登島	未	0.017	0.016	0.016	0.019	0.016	線吸収法
中能登町	鹿島	未	0.019	0.018	0.017	0.020	0.017	線吸収法
七尾市	石崎	住	0.022	0.022	0.022	0.024	0.021	線吸収法

(注) 1. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

2. 「測定方式」の欄には、光散乱法、圧電天びん法、線吸収法の別を記入。

(10) 非メタン炭化水素（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppmC)					測定方式
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
金沢市	三馬	住	0.12	0.12	0.11	0.12	0.12	直
内灘町	内灘	住	0.10	0.07	0.09	0.07	0.10	直
七尾市	大田	未	0.08	0.10	0.06	0.04	0.06	直

(注) 「測定方式」の欄には、直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記。

(11) 非メタン炭化水素（6～9時における年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	6～9時における年平均値 (ppmC)					測定方式
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
金沢市	三馬	住	0.12	0.13	0.12	0.13	0.13	直
内灘町	内灘	住	0.12	0.10	0.12	0.10	0.12	直
七尾市	大田	未	0.09	0.11	0.06	0.05	0.07	直

(注) 「測定方式」の欄には、直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記。

(12) メタン(平均値経年変化)

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppmC)					測定方式
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
金沢市	三馬	住	1.87	1.88	1.88	1.90	1.90	直
内灘町	内灘	住	1.85	1.88	1.87	1.87	1.88	直
七尾市	大田	未	1.78	1.80	1.80	1.82	1.82	直

(注) 「測定方式」の欄には、直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記。

(13) 全炭化水素(平均値経年変化)

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppmC)					測定又は換算方式
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
金沢市	三馬	住	1.98	2.00	1.99	2.01	2.03	直
内灘町	内灘	住	1.95	1.95	1.96	1.95	1.98	直
七尾市	大田	未	1.86	1.90	1.86	1.87	1.88	直

(注) 「測定方式」の欄には、直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記。

自動車排出ガス測定局経年変化

(1) 一酸化窒素（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
野々市町	(自)野々市	住				0.042	0.035
金沢市	(自)武蔵	商	0.060	0.056	0.058	0.057	0.050
金沢市	(自)片町	商	0.066	0.077	0.082	0.072	0.063
金沢市	(自)藤江	準工	0.019	0.024	0.018	0.016	0.016
金沢市	(自)駅前	商	0.019	0.020	0.024	0.021	0.019

- (注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出
2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(2) 二酸化窒素（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
野々市町	(自)野々市	住				0.030	0.034
金沢市	(自)武蔵	商	0.034	0.032	0.033	0.037	0.033
金沢市	(自)片町	商	0.034	0.038	0.041	0.039	0.037
金沢市	(自)藤江	準工	0.030	0.032	0.026	0.025	0.026
金沢市	(自)駅前	商	0.023	0.023	0.025	0.025	0.022

- (注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出
2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(3) 二酸化窒素（日平均値の年間98%値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	日平均値の年間98%値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
野々市町	(自)野々市	住				0.048	0.054
金沢市	(自)武蔵	商	0.050	0.048	0.050	0.052	0.051
金沢市	(自)片町	商	0.051	0.060	0.063	0.054	0.052
金沢市	(自)藤江	準工	0.048	0.050	0.041	0.041	0.041
金沢市	(自)駅前	商	0.034	0.035	0.037	0.038	0.035

- (注) 1. 湿式測定機の酸化率を70%、ザルツマン係数を0.84として算出
2. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(4) 窒素酸化物（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
野々市町	(自)野々市	住				0.073	0.069
金沢市	(自)武蔵	商	0.094	0.088	0.091	0.093	0.083
金沢市	(自)片町	商	0.100	0.115	0.123	0.111	0.100
金沢市	(自)藤江	準工	0.049	0.056	0.043	0.041	0.041
金沢市	(自)駅前	商	0.042	0.043	0.049	0.046	0.041

- (注) 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

自動車排出ガス測定局経年変化

(5) 一酸化炭素（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppm)				
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
野々市町	(自)野々市	住	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
小松市	(自)小松	商	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4
金沢市	(自)武蔵	商	0.8	0.8	0.9	0.9	0.8
金沢市	(自)片町	商	1.6	1.7	1.4	1.2	1.1
金沢市	(自)藤江	準工	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
金沢市	(自)駅前	商	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5

(注) 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

(6) 浮遊粒子状物質（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (mg/m3)					測定方式
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
野々市町	(自)野々市	住				0.026	0.026	線吸収法
金沢市	(自)武蔵	商	0.026	0.023	0.024	0.026	0.024	線吸収法
金沢市	(自)片町	商				0.030	0.031	線吸収法
金沢市	(自)藤江	準工			0.023	0.024	0.022	線吸収法
金沢市	(自)駅前	商	0.028	0.027	0.025	0.020	0.020	線吸収法

(注) 1. 年度を通じて測定時間が6000時間に達しない場合の年平均値は()で示す。

2. 「測定方式」の欄には、光散乱法、圧電たんびん法、線吸収法の別を記入

(7) 非メタン炭化水素（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppmC)					測定方式
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
金沢市	(自)武蔵	商	0.56	0.55	0.58	0.42	0.31	直

(注) 「測定方式」の欄には、直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記

(8) 非メタン炭化水素（6～9時における年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	6～9時における年平均値 (ppmC)					測定方式
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
金沢市	(自)武蔵	商	0.43	0.48	0.49	0.37	0.27	直

(注) 「測定方式」の欄には、直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記

(9) メタン（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppmC)					測定方式
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
金沢市	(自)武蔵	商	1.95	1.98	2.01	1.92	1.88	直

(注) 「測定方式」の欄には、直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記

(10) 全炭化水素（年平均値経年変化）

市町村	測定局	用途地域	年平均値 (ppmC)					測定又は換算方式
			平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
金沢市	(自)武蔵	商	2.51	2.53	2.60	2.34	2.19	直

(注) 「測定方式」の欄には、直接法の場合「直」、差量法の場合「差」と明記